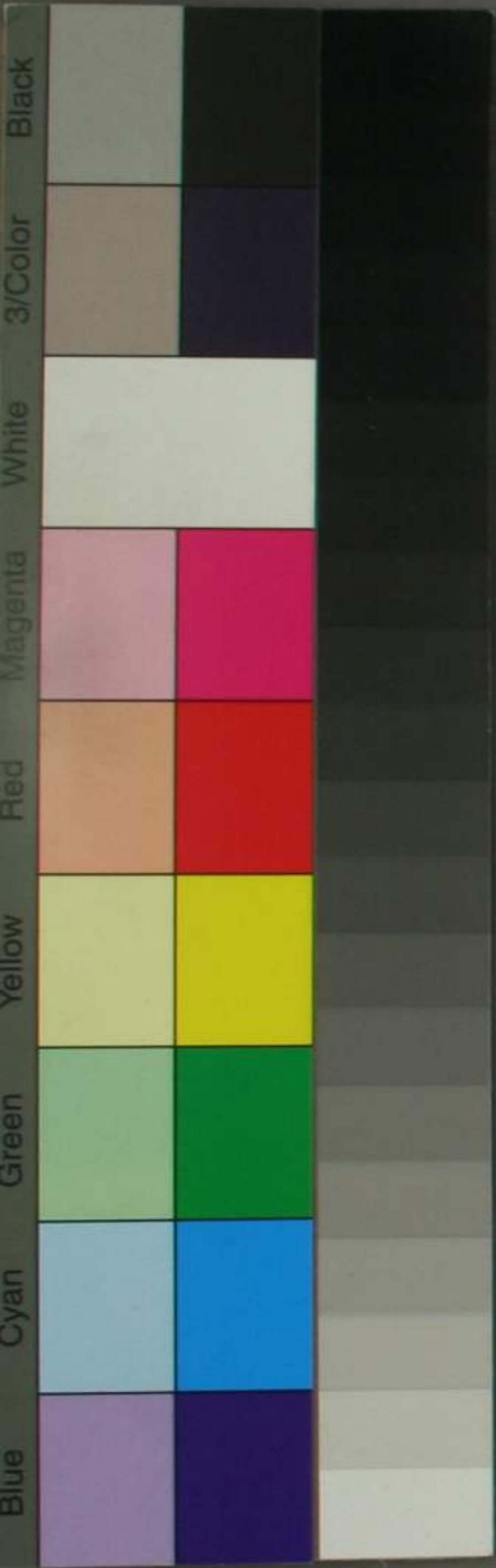


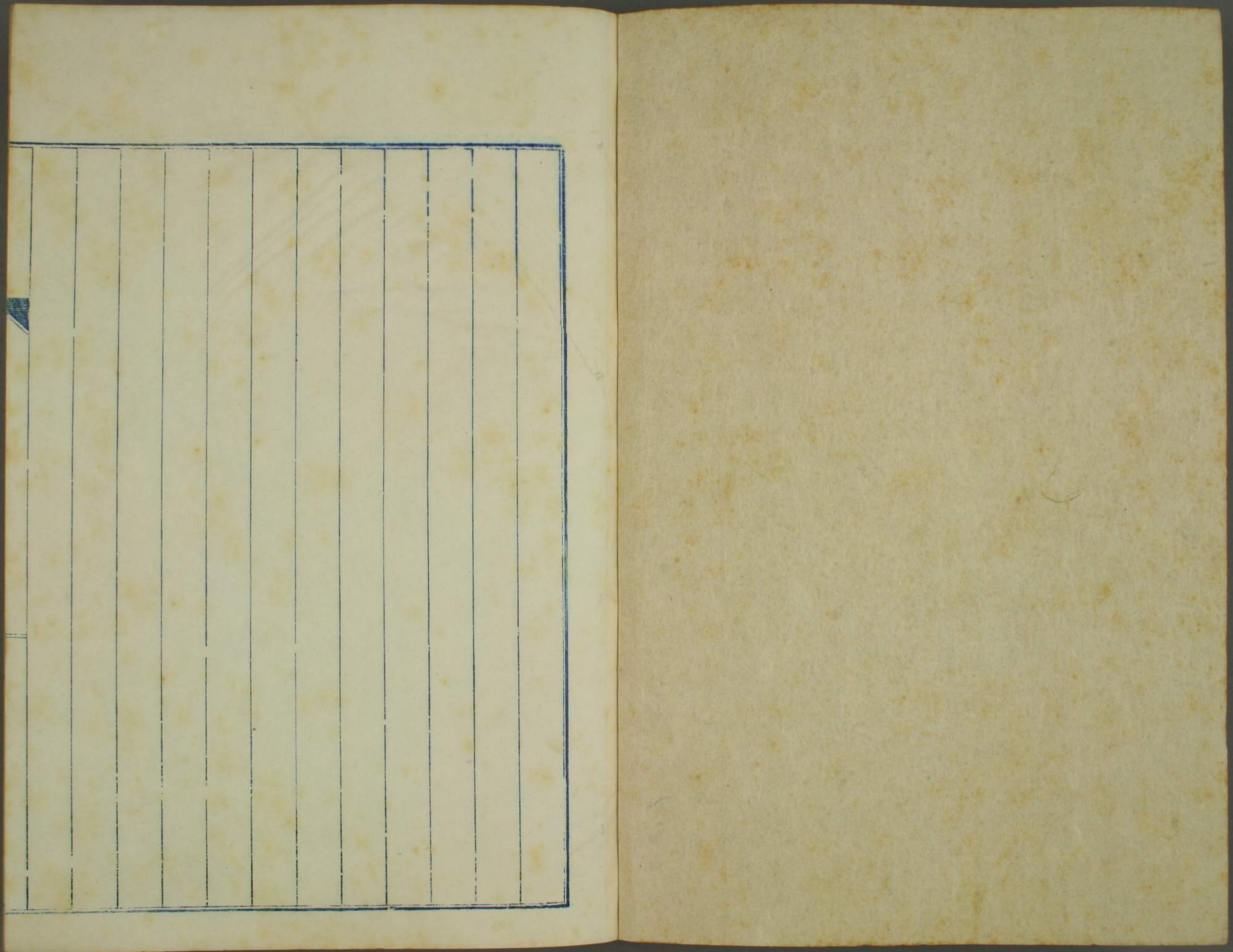
日露戰後史料 第十三卷

自明治卅七年  
八月至十月 路透電報

早稻田大學

リ印5  
2107  
13







明治三十七年八月分

路透電報集

附倫敦特電

仙園法王と絶つ

後園法王と絶つ  
期

仙園法王代表者

七月三十一日

△ 仙園政府ハ羅馬法王廳と外交關係と絶つた  
り斯くて兩者の關係ハ今も全然破裂し去り

△ クロンスタフト雷塞の五十年祝祭無期延期と  
なり

仙園外務卿ガルカッセル氏は巴里駐劄羅馬法王  
廳代表者ニ通譯して曰く仙園羅馬法王廳内  
閣係破裂したるを以て代表者の巴里滞在ハ無

米英汽船撃沈  
問題

用となるべしと

米國政府ハ半官的記事と公ニシテ米國ハ中立國  
船の撃沈ニ関シ米國ニ依リ提議セラルた  
諸規則ニ頓着ス右ノ所爲ハ悉ク現時の國際  
法の主義ニ反セしものなることと主張ス  
言ハク

米國の新周紙ハ戦時禁制品と搭載セシ中立國  
船の撃沈ニ関シ強硬ナル態度ヲ持シナイト  
コンマンカノ類の撃沈ハ同船ヲ海港ニ廻航ス  
ること不可行ナリ之故を以テ全然正當ナル  
と主張ス

米英汽船撃沈  
問題

八月一日

聖彼得堡通信員の報ニ依ルハ曰クナイトコム  
マンカノ類の撃沈ニ関スル米國の通牒ニ對シテ  
米國ハ未ダ其答辯ヲ大使館ニ與ヘ但シ米國  
大使ハカンヂ氏ニ與ヘラレたる確言の忠實  
ニ実行スルべしと之を信ト得ベキ何等  
の理由ヲ有セザナイトコムマンカノ事件の結  
果ニ依リ新訓令別紙ニスクリロフ提督ニ與ヘ  
ラるべしと

海賊船又出

○ 高田巡艦二隻、軍旗を掲げ、大汽船二隻、  
一昨日丁林領海をくぐり、トベントを通過し、  
北方に向へ、紅海の義勇艦隊と交代せんとす  
るものなり

八月二日

美國の対露抗議

美國外務次官ハリス氏下院に於て説明して  
曰く、美國の食料品の戦時禁制品中に加へられ  
たる、對露國の抗議を所せしむるなり

故將戦死云報

ワシントンバトキンの報告に據るハケレル將軍掃

子峯の兵を指揮中砲陣に中り戦死せしと云ふ

美國議会の信任  
投票

自由党首領カメルハンナ氏に政府不  
信任の動議を提出し、其投票を行はるも左  
に二百十票に對する二百八十八票を以て否  
決せられたり

仏國議会の趨勢

仏國議會議員選挙の結果に、政府党の反対党に  
對する超過数八十二名なり

露都の震駭

ハケレル將軍の戦死に、聖彼得堡に大動揺を興  
へたり

△ 英國汽船マラツカ號：同丸、夜國官邸の說明  
ニ據れば曰く同號：搭載せる爆薬ハ縱し英國  
政府の所有ニ属し且つ之を爲す同號ハ釈放す  
る、ニ至りた則とせしむ夜國の船船と提案す  
るの権利カ子ル通航の問題及ビタイト  
コママンカ一爆沈等の事件ハ尚且政府の審議  
中ニあるものなりと

△ 新巡洋艦ドン號及びウラル號ハ紅海ニ向す將  
ニおしん午ツクと出發せんとす

八月三日

夜國政府は其開陳を發表せし即ち英國ハ其戰  
時禁制品を英國政府の財産たるべし旨宣言  
たるニ依り之を釋放しなくと云ふ而し船長  
が其類書類を提示せしを拒絶したるを確言し  
政府はビーターと心一が又はスモレンスクの  
夜遺す小左る不始き同く任務ニ依り敵國ニ對  
し戰時禁制品の輸送を防止せしつりし巡洋  
艦又は其他の軍艦と夜遺せし旨を放棄せ  
おす由附書せし義勇艦隊の性質及びカ子  
ルスの同題：つりては更ニ云ふ事なし

八月四日

丁總督の南下

△ 聖彼得堡より の 報道 : 係ルバ アレキシーフは  
去二日奉天 : 向ル 哈爾濱 を 出 発 したりとす

△ 巴里 : 於レハ 達陽より 来ル 諸種の 畏た 悲觀  
的なる 報道 を 度 畏ル

夜軍の悲觀頻々

夜艦來東の說

△ 夜軍 巡洋艦 四隻 水雷艦 四隻 極東 : 向ル 昨日ク  
ロンスタット を 出 発 したるとの 說あり

夜將達陽の南  
り戦り

ク ロバトキン 將軍の 甚 報告 : 於レ 希望 と 達  
て 曰く 夜軍は 重大なる 損傷 を 受 けし 本陣地 :  
退却 したる 不 在り 陣地は 兵 數 : 於レ 優勢 なる  
敵 : 抗 して 之 を 維持 する を 得ん と

敵の前進報告

ク ロバトキン 將軍の 報告 : 曰く 軍は 衣服 食糧  
兵 隊 隊を 運 搬 する 所 存り 支 度 せし 所 存り 荷車  
: 係り 鞍山 街道 を 経て 難 澁 したる こと あり 海  
城 を 引 揚 げ たる 所 存り 可 才 炎 熱 : 甚 多 日 射 病  
: 冒 する 所 存り 頗る 多 故 あり と

アレキシーフの來東

アレキシーフは 哈爾濱 : 赴 けり 同 地 あり 浦 崑



ニ卦くべし

華盛頓よりの報道ニ依り米國政府ハ露國至  
ニ其地の諸政府ト露艦の船隻ヲ偵物捕獲ニ  
関シ交渉中ナリ米國ハ其の如クなる場合たる  
ニ向キ直接交戦國の陸海軍ニ使用せらる  
ニあらずる食糧品ハ戰時禁制品ト認むること  
能はむとの主義を撤廢せしむべしといふ

△列國委員會を以て戰時禁制品を積載せる中立  
國船隻の検査を行はしむとの議ニ関シ露部  
ニ於シ議辯紛々なり

△日本行貨物を汽船に積載せんこと目下甚困難  
なり

△撤装ニ於テ露國の地位の既ニ望みなきに拘  
り露國政府ハ突然命を傳へて波濤的艦隊  
の撤装を取急せしむるなり

△ケロバトキンは其隊列を乱さずして退却せ  
んとすを希望するもの、如く一般ニ信せら  
る

旅順陥落と講和

△ 露都：於て一般に信じた所にてハ旅順の陥落  
ハ直に露國政府と講和談判の開始に至ら  
しむる事とならざるべし

遼陽撤退説

△ 聖彼得堡諸通通信員ハ露國陸軍部内よりク口  
ハトキン將軍ハ遼陽を撤退せざるべし  
と云ふと唱へ居る旨電報

哈爾濱冬籠り

△ クロハトキン將軍ハ哈爾濱にて冬籠りと在る友  
り無用なる非戦闘員を同地を去るべく命令せ  
り

露國宣言之虚偽

ピーター会社秘書役はタイムズに書きたり  
セ同会社汽船マラワカ號の捕拿せしむるに  
同船長が諸證書の提示を拒絶したるを故なり  
と云ふ露國の宣言を否定し露國積荷目録を  
出さざるのみならず船員若手若と嚴罰艦  
タリスバーゲ内へ送り捕獲を以し正當なりと  
する事由を得んが爲り各種の誘引と申出でた  
りと曰へり

八月五日

露國よりハ報道ハ其大損害を受けたること及

遼陽方面に復國  
報

夜軍の改善

比六門の砲も失はるゝと云ふ詔ありて、是も尚  
は七月三十一日の行動を以て未だ勝敗を定ま  
らざるに至るが如し、この如く、戦闘は夜軍の最  
も好都合なるものと思はるゝ。如き状態に於  
て初りを了し、其後日本軍は夜軍の両側面を包  
み之を縦射せしむるに成功し、夜軍の砲兵は之を盾  
の全く破壊せしむるに力なきと云へり。

△黒木將軍の軍に、夜軍したる夕、イムス通信員が  
報に據るに、去る日曜日（一日）の戦闘は小  
銃射撃に於て、且つ塹壕の築造に於て、敵の手段  
の進捗し来りたるを表明せり。日本軍の進軍は

度々大に停滞をへり。

△聖彼得堡に於ては、ワシントンに報告を以て、  
為日兵力の不足を意味せしむるなりと云ふ。

△ピリオール会社は、日本港灣への普通積出荷物と  
其汽船に搭載せしむるを見合はせ、至り然れども  
同会社は依然日本への旅客を輸送する者なり。

八月六日

夜軍ハ土月其ニ通告シテ二隻ヲ飛勇艦隊汽船

夜軍の兵力不足

ピリオール会社の  
慎重

飛勇艦隊汽船の  
通告

ピロオーの積荷  
拒絶

石炭を満載して得にカシムスと通航せん  
とも云ふ右汽船は其商船たる性質を保持す  
べし旨請言す

ピロオー会社は戦時禁制品に因る解釋の不  
明確なるを以て其汽船は得て上海以東の乗客  
及び載貨を受理せざるべし旨公告す但し  
日本より載貨は同会社汽船依然之を収容す  
る筈なり

アラビヤ航路放  
止

アラビヤ航路は若干の麥粉、鐵道材料を没収さ  
れたる後浦塩斯德に於て航路を止る

土廷の對英要求

土廷其政府は英國の最要航路のカシムス  
海峡通過に因る通告に對し同航路が海峡通  
過の後海軍旗を掲揚せざるべきことを書面  
にて保証せんことを求めり

戦時禁制品問題

中立国船舶の戦時禁制品積載に因り英國に對  
する反抗の気煽今尙當地に盛なり

英國內憂外患

戦争の結果内憂外患並に臻るべしと英國人一  
般に信ぜらる

夜艇一隻東航

八月七日  
夜艇一艘東航  
て東へ向へり

大石橋の敵死傷数

在聖彼得堡路透通信員は、従據をべし、筋に於て  
傳へらるゝ所とて、報して曰く、夜軍が海城方  
而に於ける頃日の戦闘に於て、彼りたる損害ハ  
少くとも死傷四千に及びたるなりと

マラカパ航の出帆

釋放せし小たるビーオー  
会社汽船マラカパ  
航はオートサイドに向ひ  
アムジールと出帆し

コンミンガー航の  
善利

浦塩の捕獲審檢所ハ日本を經て仁川に江向  
り小たる鉄道材料ナイト  
コムマンター航  
にあり故を以て同航の撃沈を正當なりと  
船體搭載貨物共正當なる捕獲物なりと審定す

西嶺の首府ニ

美國遠征隊ハ其後戦闘を了しとかくし七月  
三日マラカパ府に達せり

八月八日

浦塩捕獲審檢所は十イトコムマン外一號を以て正當なる捕獲物なりと判決しなると雖も美國政府は反對の意見を持て總理大臣ハルフォード氏は日本に下院に於て述べて曰く我國の説明たる当時の實情ハ中立國船舶の撃沈に對して一と一の間然たる所あり、理由となり本美國政府は最小の程度を以て其地位を譲らざるなりと

日本上分利付公債は日本は半磅方騰貴し八十九磅となる

仙居のワロン軍港の兵器廠に大火あり工場總て破壊せらる

ベンライン汽船亦戦時禁制品を是處明確となすも日本行航海を中止しな

聖彼得堡よりハの電報に依りて去る五日旅順口の於て劇烈なる陸戦あり日本軍は多大の損害を被りて撃退せらる死者は一萬人あり露軍の死傷は約千人なりとの説あり又テワセル電報に曰く去月二十六日より二十八日に至る日本軍の旅順口攻撃は撃退せら

北其死傷莫大なり、露軍の死傷は三日間、し將  
校四十名 兵士千五百名なりと

グレン ライン 汽船ハ日本行貨物の搭載中  
止したり

總理大臣ハルフォード氏ハ下院ニ於て一場の  
演説を試みマラソカ 露事件ハ已軍條約調印以  
來初りし起りたる此種の 問題なることと 指示  
し 同事件の 露看は互讓の 性質ニありしこと露  
國ハ 英國の 要望ニ 應ぜんと する 希望を示した  
ること 并ニ 英國の 目的は 美露兩國の大危機を

又々日本行貨物の  
停止

英國首相の演説

胚胎せしむるが如き出来事と防止するにあり  
しことと言ふ少しも不実行の暗示をなせしこと  
無かりし露國の 露看、 割りんとし 吾人が極  
力努むる所ありしは 全の少く遺憾とせざる  
所なりと云ふ次ニ 吾人は ナイトコムマン知  
張の 演説ニ 對し 既ニ 提示せしむる 論據ハ 眞  
實なるを吾人ニ 拘りし 吾人の 意見と 固持し  
警沈を以て 正當なりと 爲せしことし 吾人  
は 些少なりとも 吾人の 地歩を 譲らばと 曰へり

八月九日

美國遠征隊はラサチ府の外市知ラチ喇嘛の園  
林に近く其陣を張れり。知ラチ喇嘛各僧官を従  
へ既ニ府を去りて在らざりし。又は其身を隠し  
居れり。如く政府吏員は外見遠征軍に懸  
念なきに知ラチ喇嘛不在の故を以て如何をも  
去りしと能はざり

八月十日

又ラサチの報に據れば六月二十七日  
（七月二十六日）に於ける日本の攻撃は前  
面全線に亘り夕八時及べり。同時多し日本

軍は大損害を負ひ各地点より撃退されたり  
敵の兵数は七萬と算せり

土耳其は義勇艦隊汽船沈し兵器又は軍需品  
を輸送せざりべく全航程に高航旗を下し  
り而して至當の間隔を置きボスフォラスを通過  
せしむるの露國の諒言を承認せり

英國汽船の禁制令の解釈不明確なるを故を以  
て遂に拒絶せざりべく引受くることなれり  
送貨物は概して汽船之に引受くることなれり  
是を以て各派の英國新聞紙は英國政府直しく



仙國政務の死去

後國：通告して後國の禁制を規定する承認を  
こと能はざると云ふべしと激烈に 勧告し居り  
調和論者居り悲む

△前仙國內閣議長ワルデツクルーソー氏本日死  
去せり

△ポールチツク艦隊は十六日を以て出發し十月  
中旬を以て純東に着たべく全艦隊六十隻より  
成り上る後國公言せり

△聖彼得堡にてハ 不思議に樂天的なり尤も根山

根山巨鎮と後部

今日日真云

○日本軍の度：右領せりハハハ旅順の戦  
闘、重要なる關係を生むべきものなることを  
認り居り

濠洲聯邦上下両院はニユーサウスウエールス  
の如ルケチーを以て聯邦首府、選定せり

君士坦丁堡よりハの報ありとして柏林電報ヲ傳  
ふる所ニ據ルハ土耳其政府ハ後國義勇艦隊の  
外に外子ルス通航ニ其同意を與へたりと云ふ

美国外務次官パーシー氏ハ威海衛借地権消滅

濠洲聯邦首府

義勇艦隊通峽  
用也

美國外務次官パーシー

後の同懸：つゝ其改革を發表せしむると拒絶  
せし

聖彼得堡：若手の虎列刺痲患者発生し、流行  
の兆あり、警愕を興ふ

八月九日の電報を以てケレン ライン汽船日本  
行貨物の輸送を廢し、之と報したるはホルト  
航路及びベン航路汽船の之を廢し、之を誤なり

八月十一日

ワルテックルソー氏死去せし

戦時武装あり、ポーア人を殺し、左列との故を以  
て終身懲役に處せしむる、ウイルトン中尉(大尉)  
は此度釈放せしむる

八月九日度クハバトキンンの報告：據ルハ東部  
及び南部の形勢は、変化ありとあり

△ 總理大臣ハルノオノ氏は今夜下院に於て中  
立國船舶は今後再び吾國船舶に警沈せしむる

露邦の要疫流行

日本行積が停止

仙國政治の要

美國軍人の特赦

露邦の平穩

中立船舶と美  
國西大臣

予しと無り可きと十分信むる旨言明し外務大臣ランズダウン卿は上院に於て英國ハ極東に於ける高業に就て優越なる利害關係を有するを以て我々中立國の權利を辯護するの義務あり且つ目下南洋戦時禁制品となすゆゑに付、高議中なりと宣言したり

蘇格蘭東北ランアーク區に於て死去したる前議員ラウカン氏の下院議員補欠選挙より急進黨のフインドレー氏五千六百十九票、統一黨のタツチ氏四千六百七十七票、勞働派のロバートソン氏三千百八十四票を得結局フインド

レー当選なり

八月十二日

旅順艦隊脱出の企は却て旅順の英國陸軍に大打撃を與ふべきものと豫期せらるる而して当地に於ては脱出艦の存亡に關する報道を待つこと切なり

露艦の中立船捕獲に對し政府当局者の議會議員は演説したる所は美國政府が其一旦公に宣言したる態度を憂むる所なり

戦中船隊の資  
格調査

心すを兄とみし一艇：取返せしむる  
取返得僅より口イテハ社：達したる報道：依  
此ハ戦中船隊の資格と国際公法の見地より調  
査も可き高倉より成る委員任命せしむる  
と

遼陽前線の新報

黒木軍：従へり口イテハ通信社員ハ八月十一  
日と以て報道を了る處：曰く凡ての微証は黒軍  
の遼陽の前方：於し大戦開の準備しつゝ、あ  
とあし思ふ同地：…新：防禦工事と築造しつ  
つありと

花園皇后の令嬢

△ 花園皇后の令嬢：就き本日皇子生る

戦時禁制品同然

△ 更国新聞紙は引續き戦時禁制品同然の認定を  
勧告す

樞逸汽船の独占

△ 樞逸汽船会社は日本行航海度敷を倍加し今  
後二週一回の出帆を為さんと競争なきを以  
て運賃騰貴の恐れあり

日本行郵便物

△ 樞逸汽船プリンスハイソリヒ號の郵便行費  
は日本用港地の領事館を通じて引渡可しと

約束せしむる

八月十一日

外務大臣ランズダウソンの御上院に於て演説して曰く余は十イットコムマンゲル親の破壊を以て凶者なりと認むる能はざるを得ざるものと認むるの處置を以て凶者を得ざるものと認むる能はざるのみ手段は英國の商業に影響を及ぼすこと極りし重大なり余は迫り起るる制し難き出来事を懸念するものにあらんと云ふ而して英露兩國政府は常識を廣くせしむべき相當の

高麗捕獲事件

方法を發見せしは眞に喜ぶ所なる可く且つ英國の照会に對する露國政府の答の言は中立的に捕獲物を再び破壊せざるのみならず萬々無きことへの希望を抱くこと感ずるも明確なる散走と稱せざることは未だ一と之を公言せざる能はざらん

八月十三日

露國皇族は男子を生りし

只今迄に報通せしむる事實に基き一般に希望

露國皇族の慶

レシアルノ事

通商船と獨逸  
の言向

八月十四日

せうり所は日本が夜艇ししテル又イを清國  
底護の下に還附し清國の中主と侵害したると  
の非難を遊くるを可とものと云ふに在り  
外交社会は是はマンチウール 號事件及びシウ  
ーチ號事件に鑑み日本に同情を表しなすも  
尚ほ日本軍艦の所為に嚴しき批評を加へつゝ  
ぢ

獨逸は損傷なき軍艦に對しては二十四時同内  
に青嶋を退去せしむと主張せしむと察せらる

通商船捕獲と  
仙杜

美艦捕獲の経

八月十五日

ロイヤルン 照彼得僅通信員の報に據れば日本の  
シロテルマイ捕獲に對する露國の抗議は北京  
に於て仙獨兩國の支持を受けたりと云ふ  
ロイヤルン 照彼得僅通信員が報に據れば曰く十  
イト コムマンター 事件に關する英國の通牒  
に對し露國の答へたる露國は頗る懇和的のレ  
のなりしと

高麗抗議を仙  
園に依頼す

高麗外務大臣ラムスドール伯はレニテル又イ號  
の捕獲に關して清國の中立放棄に關し高麗の  
爲すに在東京佛國公使を通じて強硬なる抗議  
を申上るんとしと佛國政府に請求し又在北京  
高麗公使は中立放棄を認り遂に胚胎を重  
大なる結果につきて清國政府に抗議し且つ警告  
せんしと訓令するなり

美艦の擧害

美國駆逐艦デコイ號は演習中し、リノ嶋沖、  
於て沈没しなり

高麗商船と停  
留片

汽船カールカ號は元樗逸商船フユルストビス  
マルク號をリノ嶋國巡洋艦ドイ號の爲り葡萄  
牙國サグレス港の沖に於て進行を止りしを停  
留せしむるとしと半時間及びり

秋同盟國民祝  
辭

太平洋：於ける高麗の海權、既に全然破滅せ  
りものと認めらるる  
此度の海戦の結果としてバルチック艦隊東航  
計畫は放棄せしむるなりと云ふは、今  
回の勝利により海上の一大勢力たる日本が今  
や在るを争ふべからざらんと評し合へり

海軍の大捷と外國

遼東の海軍：同左の諸報通は皆悲觀的なり

日本公債の騰貴

日本の勝利は到る處海上の主權を日本に與へ  
高國海軍に對する總ての機會は消滅したるに  
のなりと認めらる。

日本の四分利附及び五分利附の債は共に半磅  
方騰貴したる。

中立港通過問題

モーニングポストは交戦國が中立國の海港  
に適當し以て戦開を避く了る權利に付し固く  
論難し他の新聞紙亦多少とち斷乎を了る筆調を  
持し獨逸の誠意は時々疑はる。

高國皇太子の降生

クロバトキには皇太子の降誕を祝し皇太子は既に  
若干聯隊の大佐・コサツク兵の大將に任せら  
れたる。

八月十六日

高國敗亡の秘史

聖彼得堡にては檢閲あるを爲し浦塩艦隊戦開  
の結果に就て何事も公にせしむ事  
又公に其を許さるを了る諸電報は極東に於て  
高國艦隊が今や取らざるに足らざるものと  
可なりとの感じと少しも異へた係し事情に通  
せし社会には此事既に知らる同社会には



海軍力の致命的劣勢：對其責ある施政  
組織：就て峻烈なる非難の證據あり

△レシテリ又イ事件：對する美國の輿論は我國  
が清國の中立を破れること及び清國が到底中  
立條規を施行せし力なきことを考察し今や  
大に日本：好意を表はるゝ至り

美國の國會の會期延長せられたる

膠州灣：ちる我國軍艦は共へる一是の  
期間内、出港せしむる能はざるを以て武装解

除を命せしむるに依りて於て半信の：宣言  
せしむる

北京駐劄我國公使レソサルは清國政府：抗議  
を申込みしレソサル又イ號事件：關し清國政府  
は日本の共謀者と罵りしものなりと批難し及  
び清國提督を以て卑怯の然らざるに陰謀を度  
したるものなりと批難し十分の説明レシテ  
ル又イ號の還附、清國提督の嚴重なる處罰と  
要求し清國は今や日本にレシテル又イ號の還  
附を要求す

美国海軍の抗議

旅順海軍の未帰

日本抗議と海軍

八月十七日

聖彼得堡駐劄美国大使ハーティンジ氏は中立  
国船舶の取扱：同一海軍に對して抗議書と手  
渡す

聖彼得堡よりハルビンに依りて八月八日より同  
十日に至り旅順口守備兵の損害は戦死二百五  
十五名、負傷千五百八十八名、行方不明八十  
四名なりと

聖彼得堡よりハルビンに電報：據るに海軍對商船同然

に對する美国の抗議は

第一 海軍の主張は國際法に正法の載貨な  
りと認むる物品を禁制品なりと目せんとす  
るにありとす

第二 其禁制品なりと目する貨物の追求す  
るべき地帯を制限せんとす：對し海軍の  
之を拒絶したるは即ち沿岸貿易とも尙ほ之  
を妨害するの權利を其中に包含せしむると  
するものなりとす

第三 船舶撃沈の件

第四 載貨の没収船舶の撃沈等美国航海業  
に與へらるる大損害に對し賠償要求の件

と叙述しなすし力に抗議の文辭は鄭重なりと雖も亦頗る峻刻なりといふ米國亦同時に嚴酷なる抗議を提出す其内容は英國主張の前半部と同一なり然るに我國は獨断的の實力封鎖を行はるるに南の敵國の貿易を全然禁止するの權利ありしをなすを主張す

八月十八日

△ 美國の中立船被害：同一我國：致したる抗議の文意は甚嚴重なり

政府の本内懸、執り強硬なる態度を執るに決しなすなり

△ 開戦：執り責任ある彼得堡政治家達は漸次失望を傾きつ、なり

△ 獨逸参謀本部の有名なる某將校は曰く日本將校は殆ど此まじき比類なき程軍略に巧妙なりと云ふなりと

前獨逸郵船カイロリン マリア テレサ 號たり我國巡洋艦ウラル 號はジブロールター西

海峡に於て英國の運炭船に停船を命じたり同  
船長の稱えし所は擧げれば同船は禁制品を輸送  
し居れり二百隻の汽船に對し目下その捜索中  
にありしものなりと云へり  
右の房はハムブルグ アメリカ会社及び北極  
ロイドは英國会社の拒絶したる船貨を輸送す  
る所爲り其日本への航業を営むつて疑惑  
を抱き初りたり

△英國政府は語辭激烈なる抗議を英國に提出し  
國際法の認めし正法債權たる高品を禁制品  
なりとせんとせしる英國の要求に反對し且つ船

船追求め許容さるべき地帯を限定せんとせし  
る英國に於て拒絶したるに反對し斯の如くん  
に遂に沿岸貿易を阻害せしむるに至るべし  
と稱し且つ禁制品輸送の名を以て直に中立國  
船舶を撃沈せしむる難し是れ即ち捕獲審判所の  
存在を無用ならしむるものなりと云ふ船中の  
捕獲、押収、破壊等、係りし生じたる損害に  
對し其賠償を要求せり

△聖彼得堡より報告に據ればアレキシエフ捕獲  
斯德に於てはロバトキンの司令より樹立せし  
他の軍隊を徴募せし居りしと云ふ

△ グロモボイ、ロシヤ、リエーリツク三隻の行  
方尚不明なり

△ 露國は尚丹 艦艇中立港に入らざるを得べしと有り  
到底透徹せらるらば權利を要求し居べし

△ 英國新聞紙は西視の時限経過せば必を武装を  
解除せしむべしとのなきと有力に主張し居れ  
り  
倫敦の日本居留民はモーニングポストの紙  
上：現けんたる上海芝罘事件の論評を以て其

當を得たるを認めしむ

八月十九日

前電：露國軍艦禁制品を輸送する二百隻の他  
の汽船を捜索中なりとありしは即ち地中海の  
港湾：於し 積荷の目的を以て禁制品を輸送  
し居る汽船との義なり

其後他の一運炭船マルセイユへり途上：於し  
等しく停航を命ぜられん

純然近距離輸送に過ぎざるもの：斯く其妨害  
を加ふるの結果露國の行動：対する英國の激

昇は二倍一乗り新聞紙片之：強硬な論評を  
加へ居り

聖彼得堡よりロイテル社：達したる通信：依  
此ハ露艦対商艦問題：関与する露國の回答は條  
件付戦時禁制品と絶対的戦時禁制品とを間：  
區別と設けたる英米兩國の意見を承認せしめ  
英國が故障を申込み左の特殊の拿捕の事件に  
就ては多分熟考の餘地と存し置くやうにと察  
せらるる

△ 聖彼得堡より一の報道：俄水は十一隻より成り

ホーンチツク艦隊去る十日バウ港を出帆  
一石炭船若干隻並に海上に於て艦船に修繕を  
加ふることを得べき浮船渠二箇之を併へり航  
路は南大西洋より南米のケープホーンを廻  
りんとするにあり  
指揮官ロージエスとエンスキー提督は九月  
三日出發を可く若干隻の軍艦未だ準備を了ら  
ざり

△ 旅順の消息如何は皆人の気遣はしき待てり  
所なり聖彼得堡に於て一般に意氣の銷沈甚し  
きものあり但し旅順の攻圍軍に守備軍に双方

夜団の虚威

均しく勇戦奮闘して屈せむること更：賞讃：  
堪へざる所なりと其衆口の一致たる所なり

△夜団は今日に至るて小島は設羅的艦隊を派遣  
と云々して虚威を保持せんとす

八月二十日

十一隻より成るホーレンクル艦隊石炭船若干  
隻、海上に於て修繕用の浮船渠二隻を率ゑ  
八月十五日バウ港を出帆したる之を指揮官  
たるロージヌストウエンスキー提督は九月三日

夜団の艦隊の出役  
刊報

出役考

檣逸の軍事専門家はクハトキンの前途：対  
し極めて悲觀的なる見解を持つ

カナクリ嶋ラースパールマリスよりカトリ  
メルに達したる報通：依れば檣逸石炭船  
プレシアは夜団巡洋艦に石炭を供給せん  
不慮のケープジョーロカトリ嶋の東  
方：ある西弗利加の艦なり）に向ひ出帆した

檣逸の軍事専門家  
の

檣逸の石炭供給

聖彼得堡の信憑不可なり筋力説ニ依ればホー  
クワク艦隊は来り九月二十八日以前ニ太平洋  
ニ向ひ渡航する能はむ故ニ此程艦隊ありハ  
港を出帆したるは試運轉の爲なり可なり  
ウモ然のみならず艦隊が果して極東ニ向ひ渡  
航するや否やは疑問なりと

諸新聞紙はリプトンと会見したることと記し  
第四回挑戦状(美米間のヨット競争)の既  
度せられたるを云ふ

八月二十二日

夜艦隊の来東報  
旅順口守備隊に無限の勇氣を以て其武名を保  
持すべしと信せられたるなりと

ロイヤル聖彼得堡通信負の電報ニ據れば夜艦  
は勅命を以て全帝國の豫備將校を盡く召集し  
たりと云ふ

夜艦の遠征  
夜艦隊の遠征ニ着す

ホールクワク艦隊の来東報  
ホールクワク艦隊の来東報ニ着す



夜後夜艇の南航  
投案

夜国の豫備兵と英團

夜國新聞  
夜國の豫備兵と英團

於て西國：破壊し全然沈没せり  
如しん午ツク艦隊後遺の事は之と信せしむ  
なり

△夜國巡洋艦少らん號は地中海：進航せし南航  
と葡萄牙沖：雲し居り

△夜國に勅令：依りし五十六箇列の豫備兵及び  
全國の豫備將校を召集せり

△英國新聞はレシテルヌイ號事件：周知し日本  
の處分を以て最終的のせりなりと認り上海：

於ける夜國の頑固は容易ならず、國際法を破  
壊せりと居り

浮船渠の沈没

浮船渠聖彼得堡よりホーリに向け進航中二箇  
：破壊して全然沈没せり

南河の巨艦

如しん（南河）より電報、曰く一汽艇の齎  
せし報：據水心夜艇なるべしと思はる未だ  
の軍艦去り木曜日セントフランシス岬（  
阿弗利加）の東南角沖：於て見受けしなり  
とす

夜国巡洋艦ヲシツフ(千二百二十四噸)口水雷艦二隻と寧ろ高航搜索の目的を以て紅海への途上八月二十一日ケルシートベルト(丁林海峡)を通過セリ

夜国皇太子の洗禮ニ当り表向の、の余名親は獨美国、丁林の諸皇帝等なり

豫備召集：同モる最近の勅令は全國各階級の注意を喚起したる而就中彼得堡：於ては一般人心：深大の感動を興へたり

△ 倫敦タイリスの軍事書報は満洲：於ける大勢と諱して夜国の軍事上及び政治上の現状を匡救する：は夜国たるもの須らく日本不足は是に在り得たる勝利以上の大手板を在さるべし  
ウモトイヘリ

八月二十三日

華聖頭度辺の言：據ルバ曰く東国軍艦は清國の中立を保護する爲り何等の計畫を行ふべし  
ウガ旨特：訓令これ同艦隊司令官亦日本艦艇の行動：干渉をべしとの何等訓令：接し居

樞密領事の訓令

ラが政府筋に於ては日本決して中立を侵害す  
この意を有せしむるなりと確信し居り  
伯林より報道に依り上海駐在樞密領事は清  
國の中立に干渉を可らざるを訓令せしむ  
たりとす

我の正当を認む

我國最良樞密領事新團がドイツツツ  
夜艦上海進入事件に對する日本が要求の全然  
正当なるを認めたり

禁制品と商業

リグアーブル商業會議所は外務大臣ランス

カウニ御：沃議書と呈し我國の戦時禁制品問  
題に關し速に設定をなす我國の戦時禁制品に  
對する處置より一英國商業の被むる損害の  
救済策を共へんことを熱望し又此の他の商  
業會議所の協同を求めたり

南阿の夜艦

聖フランシスコ岬附近に於て発見せしむる夜  
艦巡洋艦はスモレンスク號なりとの説を以て  
も恐らく元樞密領事ニ一後軍艦に改装せら  
れたるものなりとす

我國改裝の實事

スモレンスク號なりと信せらるる一我國巡洋艦

南河ハシ一河口：於し美国汽船コメテイアン  
頭を停留し諸證書を検査したり然れども右巡  
洋艇を以てスモレンスク預たりとせしは此の  
疑はく恐らく近頃獨逸より購入せらるる船  
なりん  
多数の船舶は日本：向ふ喜望峯迂回航路を取  
りつ、ちり外務大臣ランスダウソンの卿は露國不  
裁勇巡洋艇の中立國汽船ニ干渉せしを廢止し  
及びスモレンスク、ピーターズバークの諸  
埠せらる可しとの證書を與へたりと近頃述べ  
たるども船舶業社会ニ於ける危懼の念は再度  
たり

石炭供給禁止

交戦國の船舶ニ一し戦地ニ赴らんとして若く  
は戦時禁制品を搭載せしとの疑念の下：中立  
國船舶と遮断せし目的を以て其所處を了し内  
ろを戦地への航路上ニせしむるに對し石炭を  
供給せしを禁するの布告モルル夕に於て度布  
せしむるなり  
タイムスは同様の布告傳へるの英領：於て度布  
せしむる可しと解す

再燃 海賊船同然の

分一ノ航路：露國巡洋艇の現出する事實…  
再び新聞紙の諱難を惹起したりタイムスは曰

く我園は義勇艦に同じて西式に協約を存しを  
るに拘りう本君に彼の南河の巡洋艦に以て実  
際スモレンスク號なりとせば同然に再び駿速  
且つ果断の處置を要す可き危殆の局面に逆戻  
りしたるものなりと曰へり

八月二十四日

グイレニエウス提督は某巴里新聞の通信員に  
對しアスコルド、グロゾウオイ、テイア十は  
損傷を被むれりが爲り武裝を解く可しと語れ

我園皇太子の洗禮式に於ける我園の宣言書は  
不文律と一般に輕減せしむると約し殺人犯を  
除く外の国事犯に對し大赦と宣ひ農夫並に初  
犯の兵卒海兵に對して體刑を廢し各種の滞納  
せる租税を免し土地を所有せざるもの對し  
る慈善基金中へ三百萬留を寄附し徵兵令に抵  
抗したるコムニエーン及び猶太人のコンニエ  
ーンが兵役を避けんが爲り遁逃したるものを  
罰せざるが爲り賦課せしむるを科料金を免除す

△ スモレンスク號が南河の海上に現れしよ

リ夜間巡洋艦の横行：對する同國政府の通信  
は一般の憤怒を惹起しつゝ、あり倫敦タイムズ  
は之に對して美國が何時まで夜間の既：背反  
せる實言：依頼せんとせざるや船に向ひて曰く  
夜間は須らく美國の政府及人民に最早其の  
甘言：欺瞞せらるゝ：堪へざるを悟るの必也  
あるべしと

八月二十三日

△ ターバンのルーター通信員曰く義勇艦隊は  
レンスグは七月九日鉄道材料を積み込み金山

：向つて紐育を出でたる美國船オルムリー號  
を捜索しつゝ、ちりとオルムリーは日曜日に  
バーンを出発せらるゝ

△ 独逸皇帝の代理ヘンリー親王美國皇帝の代理  
ロークオ親王は夜間太子の命を弑す列生る為  
め彼得堡：看し夜帝：勸逆せらる

△ 夜間軍醫は日本軍の十銃彈丸を以て從來用  
らるたる銃丸中の最も手柔うなるといふ  
つ曰く以前：ありては必を死せべしし創傷  
も今度僅々数日：で治癒を現す夜間負傷兵

倫敦商業會議所  
と禁制品同盟

入院加療後再び戦場：赴く者の数多きを以  
既往の戦争：於て未だ見おす所なりと

倫敦商業會議所の支那片度部は禁制品同盟と  
時局と：つぎ審議せしむる所なり  
召集せしむる

皇太子の即位

皇太子は壯大なる儀式を以て命ぜらるる三  
百一門の祝砲發射せしむる都は壯麗：裝飾せし  
むる

海軍とモルタガ

海軍艦：石炭を供給せむるをむとす

夕政藤の直言：對し聖彼得堡に頗る不遜の  
念行はるるノーグオエウレミアは此行爲を以  
て直に露國に敵意を表せしむるに之を不爲  
め日本に何等の影響を與へざるしむるなりと  
爲せり

八月二十六日

テレグラフ新聞のケイプタウン電報：據るに  
曰く司令部：照會の後：あらざるにケイプ砲  
隊内地諸港：於て海軍艦：石炭の供給許さ  
れざるなりと

海軍と石炭賣

露國の厚顔

聖彼得堡に於し風説さるる處：據るに上海の  
露艦：武器の解除を行ふ前露國はししラルマ  
イ號の如き事件を再演せおるべし旨日本：保  
證せしめんしと主張したると云ふ

八月二十五日

△露國政府は稱して曰くスモレンスクの行動  
に關しては更らに知る處あるなり或は政府の  
訓令未だ曾て彼に達せざりしものなりんと

露國曰く不知

露國の厚顔(又前)

△美國總理大臣ハルフォード氏は倫敦商業會議  
所東洋部議員に對し今夜答辯して曰く露國は  
スモレンスク、ピーターズバーグ兩艦を捕  
獲し之を露國政府の訓令を傳へんことと美國  
巡洋艦を要求せり之が爲め二隻の美國巡洋艦  
目下之を捜索の爲め：發遣せしむるなり露國は  
消極的ニ此等船舶に依りて今後捕獲の行はる  
ことなるるべきと宣せりと

露國新購艦の事

△露國新購海賊艦ウラルはアニコール航路汽船  
と聖ガイーンセント岬沖六十哩に於し停航を命  
せり



海上石炭船

△ 露國石炭船ラスバルマス沖（亞弗利加西南南  
カナリヤ）に於て同國巡洋艦ニ其供給を行  
ハ格ナリ

スクリドルフの免  
官

△ 野彼得堡よりノ報ニ據ルバスクリドルフ提督  
免官スルナリト云ふ

八月二十六日

海賊と露國首相

△ 露艦の侵襲ニ因テ露首相ハハフォーア氏の演  
説ハ一般人心ト安カベキものナリト認メラ

露國の決心

△ 露國政府ハ今ニ至リテ初メ其の既ニ從ヘ  
事業（戦争）の困難ニシ且テ大方ニ認識  
左ノ如キニ而シ飽マズル之ヲ繼續せん決  
心ナリ

美國總理大臣の言明

美國總理大臣ハルフォーア氏は倫敦商業會議  
所議員ニ答辯シテ曰ク政府ハ南阿非利加海面  
ニ於テ露國使役巡洋艦スモレンスクの行動  
ニ關シ至急調査を加ムベキ旨命令シテ其  
後露國政府ハ今日ニ至リテ其訓令ニ右義勇  
艦ニ傳達スル能ハズ唐ニ今回ノ事ト生セ

日に至りたる状ありを以て双方（美露）政府は  
喜望峯所属巡洋艦を以て義勇艦の所在を捜索  
せしむるに同意し、英國は即ち喜望峯の巡洋艦二隻  
に即時スモーションス、ビーターズハーク二  
隻の所在を索め、之に其艦艇臨検を停止せしめ  
との英露政府の訓令を傳達せしむるに余り  
之を廢す本件は遂に終止せしむるに可なりと認  
むるを得べし、議負諸君は須く皇帝勅諭の宣旨  
の所を依頼して可なり、勅諭は單に空虛の言辭  
を羅列したるに、ちらば英國政府は右勅諭を稱  
せんたる所を其終に履行せんことを欲せしむ  
るなり、航海業の大権利は本政府の固より事

如何なる政府と雖も英國の利益を以て之を信  
頼せしむる政府に決して之を無視せしむることを  
するべきなり

マハセーユに新に海負の同盟罷業生し為り、  
商業を麻痺せしむるに至り、軍艦商船に代り、  
郵便物の輸送と行ひ居り、英國汽船之に干  
渉を加ふることなるべし

八月二十七日

昨日電報したる會合に對しハルフォード氏は

英露禁制品問題

右の給炭船

仙國同盟罷業  
公報

大敵の制限條件

即時重なりし倫敦商業會議所議員：會見を以て  
 を通告したるを以て其結果として同議員：對  
 しハルフォード氏直告して曰く政府は石炭及  
 び食料品の爲し戦争の目的に使用さるるに於  
 て其禁制品たるを認むると同時に右物品及び  
 其他：對する貴國の意見：異議を容れ政府は  
 明白：美國の位置を貴國に説明し之より美國  
 は一歩たゞりも譲ること能はざるを明に  
 睦の内：貴國が美國船舶と外國船舶との間  
 區別を設けたるを證明せし蓋し君も明白に之  
 證さるるに於ては重大なる事態を生ずるに至る  
 べきを以てしりと

ホールクック船隊：炭水と供給せんとする  
 國汽船二隻ホスフオラスと通過せり  
 マルセイユの同盟罷業者は明日まで：其要求  
 を容れざるに於ては仙國各港に其罷業を擴張  
 せんことを以て脅迫す  
 貴國皇太子命名に際し大敵を受くるは嚴重なる  
 制限と條件あり殆んど總ての犯罪人は此恩  
 典に堪ふる能はざるべしと

千P十の損傷

△ 柴根より巴里への電報：曰く千P十は水線より上下には各一々の損所あり而して戦死者四名負傷者二十三名ありと

遼陽進軍の開始

クロバトキンに長文ニして且つ浪雜せる報告書を送りて去る二十四日朝より二十五日午後五時：直り遼陽の南東に於て絶えぬ戦闘の行はれ左のととを報し當時日本軍は露軍の前進陣地を撃壊したるものと覺し遼陽を距る二十三哩なる浪字山に向ひ強進しつゝありたりと曰へり

八月二十八日

遼陽露軍の死傷

△ クロバトキン報告し曰く去る全曜日一二十六日遼陽方面の戦闘：於ける露軍の損害は甚を多く千四百五十人に上れりと

石油庫の大火

△ アントワープに於て石油の大火ありスタンダード会社の石油庫六箇破壊し四名の死者と出せり

日本政府の通牒

華聖頭より報告：依りハ高平駐米日本公使は露國ニして直に上海に於ける其軍艦の武装

を解除せむんは日本は權益を保護するに必要  
なりと認むる手段は其如何なるものたるを固  
はむ之と採るの餘義なきに隔るべしと系列  
團への通牒書と團務卿への氏の手渡しせりへ  
く氏は注意して政府の態度を漏示せざりし  
公使に記言するに米團は請團の申立不永續せ  
んことを希望せしものとを以てしき

柔港に於て催さるる第二回世界周遊季開チ  
ヤンピオン競技に於てジョフフレースは  
ムと敗れし

八月二十九日

ロイターに照彼得堡通信員の報に曰くサカロフ  
ノ將軍八月廿七日電報して去る全曜日ノ戦闘  
後その退却に當りて六門の砲放棄さるる處  
團の損害は未詳ナルとも多介千五百名を起申  
べし多敵は刀劔銃槍、拳銃等、依りし負傷  
なり以て其接戦にして且つ激戦なりしを知す  
に是るべし日本の轉回運動及び其砲の縦射に  
依り露軍は其新陣地を撤退せざるべしらざる  
に至らざるものなり日本軍は土曜日(廿七日)  
午後二時に再び攻勢運動を執りし日本軍の攻

撃は其頗る執拗なるに於て著しと云へり

夜國政府ハクハトキハ地位を固るを志す左  
の躍記努力中なり

夜國の本國ニシテ召集したる第二の大軍三四個  
軍團は奉天ニ集中せしむると云

八月三十日

美國巡洋艦四隻砲艦一隻南阿非利加海面ニ於  
て夜國義勇艦と搜索し居り

ロイテルの聖彼得堡電報、據ルハ夜軍遼陽へ  
の退却中ロウトウスキー將軍及びゲラーベン  
大佐戦死したると云ふ

明治三十七年九月分

路透電報集

附倫敦特電

英國艦隊の  
艦隊捜索

八月三十日

英國海軍省の公表せる所ニ據ルバ曰く喜望峯  
艦隊司令官は一等巡洋艦クレセント、三等巡  
洋艦フォート、同パールを率ひて八月二十六  
日セーシェル群島（マダガスカーの東北六百  
哩）を發し英國最南艦ピーターズバーグ、スモ  
ーレンス、ク西號捜索の爲の南方ニ航進し居ル  
リ尚ほ三等巡洋艦バークサはウオルフアイ  
エ湾（西南アフリカ）より北へンゲエラに至  
る間を捜索し一等砲艦パートリックはウオル



フイツシエ湾より南サイモンス湾（喜望峯）を捜索し居り目下一等巡洋艦セントジョージ、三等巡洋艦ブリ、アントを率ゐるケープグアード鳩（西北アフリカ）にあり南大西洋艦隊司令官亦捜索を命ぜらるなりと

七隻の英国軍艦露帝の訓令を傳達せん所ありスエーレンスク、ピーターズバーグ二艦の踪跡を捜索し居り

△ 聖彼得堡より一の報に據るに演習中ボールンクフク艦隊に属する一艦内に於て十六門砲破壊し

爲り二艦長と初めとして三十名の即死者を生じ外二艦の進退の自由を失はれしものあり但し之は固く報は官邸に於て禁遏せらるなりと云ふ

△ 巴里新聞の報むる所は據るにケロバトキン將軍旅順口の守備兵に對し其到着を乞ふ一箇月間同地を保持せんことを求むなりと云ふ

八月三十一日

△ 廿カロツフ將軍遼陽昨日正午發を以て報し

曰く日本軍は遼陽に  
向り其同心面を以て進軍  
し居り其主力攻撃は露軍の  
中央及び右翼を以て目的  
とす此方面に於ける露軍の  
損害頗る大なり日本軍は  
徹宵露軍陣地の射距離内  
に多敷の砲を据え付け今朝  
九時に至りて之を見小  
比日本軍は露軍の中部に  
甚しく接近し居ると

伯林にて傳ふる所ニ據ルハ  
花園公債五千萬圓の發行  
裁可せしむと

△ 聖彼得堡よりハ報道ニ據ルハ  
十六萬の精兵

り成り一軍クハトキンの  
應援として哈爾濱に  
向り派遣せしむと

△ 遼陽の戦争はセタン役  
以来の最大戦として注目  
せらる

九月一日

△ 波羅的艦隊は巡航を終へて  
クロンスタットに返り

キヤムバレン氏は十月十日より  
六週間の豫定

と以て伊太利：旅行をなす者ならず不歸來財政々  
策の主張を提すし更ニ大ニ世ニ同所をうん  
とす

外務省よりリヴァプール商業會議所：送りた  
る書面ニ：美國政府が談判をなすに結果今や  
禁制品問題は英國政府の勦考を経つ、ちりと  
ちり

日本財政事情は同國を以て永く戦争を續けし  
あり：是れものあり而して日本の福利を續く  
間ニ其財政的信用は減せおるべしと信せらる

△ 米國軍事専門家は日本軍が果してクハトキ  
ンを撃破するに足るべき十分なる兵力を有す  
りや否やニ就き疑念を表せり  
樗逸ニして、露軍の現状ニ對し面をのらぶる意  
見行はる

△ 露國巡洋艦がジブラルタル海峡附近：於て爲  
さんとせし行動（中立船舶の迫害）は引續き  
航行者の危険を起す

目下の計畫ニ依れば英國の西藏遠征隊は本月

馬耳塞の同盟  
四能事

十五日ラハサ府を去る若く

クラン會社のマゼソン、サーティニア、デン  
オヴ エアチー等の諸汽船は一般ストライ  
キの爲め馬耳塞に於て荷揚をなす能はず追  
同情を表するの宣言行はる可く昨日ハ十箇所  
の地中海々港に於て其事あり、コルシカ及び  
ルジールアールを包括す

聖彼得堡路透電報：曰く過去數週間：露軍の  
援兵續々遼陽に集合し其總數二個軍團に達せ  
る所の如くと又路透通信員は信ずる所によ

遼陽露軍の増加

ルハ遼陽の陥落とクハトキンの遼陽敗退と  
を以て本年秋期の戦闘は終るなりと

九月二日

敵の二將傷く

參謀長サハロフ報告し曰く  
八月三十一日遼陽南面に於て終日狂暴なる戦  
闘あり戦闘は二箇所に分れたるを以て及  
中止されたりと而して露軍は其陣地の大部分  
を維持し得るを稱す日露兩軍とも損害多大  
ニしてスタケルベルグ、オロソウイキ、兩將  
軍負傷あり

在聖彼得堡口イラン通信員の報道云く所：依  
ルバ黒木將軍は砲兵と率五浮橋を築りて太子  
河を渡りつ、あり、騎兵亦決海を利用して之を  
渡渉しつ、あり、既：一箇師團の兵は渡河を終  
りつと

グレー伯加拿陀總督：任せしむる

△ 遼陽：於て日本軍の成効は英國公衆の各階  
級：熱心なる稱賛を博せしむる。至りて日本公  
使は若くは勝者なり

△ ミントー氏退職の結果としてグレー伯加拿陀  
總督となす

△ 数隻の露國軍艦カナリヤ島附近：於て同處に  
待受け居たる石炭船より石炭の供給を受けたり

九月三日

△ 當地の各新聞紙は一齊に日本軍の遼陽に於ける  
戦勝を以て全世界に甚深の感動を興ふべき

露軍其後損喪  
(敵方報告)

遼陽停車場の  
破壊

著大の成功なりと賞揚しクハトキン將軍の  
最後の敗北は確實なりと認めらる  
調停の風説早くも傳へらる其理由は露國が精  
力を以てしては到底大平洋沿岸に勢力を占め  
得ざるべきを明なりと云ふに在り

公報に依れば三十一日より昨日に至る露軍の  
損害は五千名なりと云ふ

在聖彼得堡ロイヤル通信員の報に依ればク  
ロハトキンは露軍昨日本陣地を退却し日本軍  
は遼陽停車場を砲撃して之を破壊しなり故に

露軍は更に遼陽の北方に於て新停車場を作ら  
んと報告せりと

(希臘駐劄英國公使)

サー エドウィン ヘンリー イガートン卿  
は羅馬駐劄大使に羅馬駐劄英國大使館書記官  
ゴエトムス・レチン・ロツド卿はストツクホ  
ルム駐劄公使に陞任せらる

九月四日

英國に於ける日本陸海軍人遺族救恤基金は應  
募額既に二萬磅に達しなり

日本軍人遺族  
救恤基金

英國外交官異動

九月五日

日本軍は其作戰計畫に於て期したるが如き大  
 なり獲物の總てを取ると能はざりし其花々  
 一き遼陽の勝利に千九百四年の戦争に於ける  
 勝敗の次を共にべきものなりと一般に認めら  
 る

又露都りの諸報に孰も遼陽の戦敗が愕然と  
 して露人を覚醒せしめんと説くものなり

九月三日

ロイヤルの聖彼得堡電報に據るに遼陽との電  
 信線故障なく用通し居り況して遮断するはた  
 らずなり

クロバトキに將軍は遼陽より左の報告を露帝  
 に電奏せり

九月一日は終日戦闘止むなく特に砲戦を主と  
 して我軍の右翼は後方即ち遼陽市の方に向け若  
 干距離を退却せざるを得ざるに至りし  
 黒木軍は太子河を徒渉して西方に前進しつゝ  
 あり遼陽鉄道停車場に敵の榴霰の爲め破壊さ

ルを以て依て其北方：新停車場を築造せり  
此二日間：於此に我露軍の損害は五千に止り  
たり。昨日敵は我露軍の右翼：対し或る陣地  
を占りたり

九月五日

△ 露軍は遼陽：於て大砲二百門を失ひたりと云  
認す

△ 露帝は更：三箇軍團の動員を命ぜり

△ 黒龍軍管区都督リナウイフチ中將奉天に進出  
つ、ありとの風説あり

△ 教育あり猶太人の地位を改善し居住地域以外  
何れに於ては商業を営み且つ居住せしむ  
ると許すの勅令を露國に於て發布せり。特：今  
回の戦争に従事せしむる若しくは兵役にあり  
しものは此勅令を適用せらるゝことと渥し

△ 印度太守カーゾン卿は向て無く印度に歸任せ  
んとす



クロバトキン九月三日付を以て報告して曰く  
戦場は高粱を以て蔽け小大に軍隊の運動を妨  
げつゝあり而して日本軍は此高粱中に隠れ居  
り重大なる損害を被り共へオルロツフ將軍の  
率たる縣隊中の某縣隊の如きは千五百名の損  
害を受けたりと

獨逸皇太子フリードリヒ ウィルヘルム殿下  
はメクレンブルヒ シェウワレン大公の妹君セ  
シリーと婚約を結べり

在聖彼得堡ロイヤル通信員の報道に依れば露

園政府の訓令は首尾克く南阿の海上に於て  
勇艦ローターヌバーク號に致さるる然れど  
モスモレンスク號に就きては何等の消息無し  
とす

馬耳塞に於ける同盟罷工の模様は依然として  
衰うや汽船アラビヤ號は馬耳塞先貨物と荷揚  
ぐること無くして倫敦に向ひ出帆したる

仙園内閣議長コムバリー氏はカーセーアに於て  
演説を試み羅馬法王廳との関係は最早や作ら  
る可き非を唯一の解決方に相互の同意に依

リて教會と國家とを分離せよと云ふと宣言せ

英國の陸軍大演習

無比の陸軍大演習は始まる。其一般方畧は、  
シシテ將軍の軍隊がサカンプトンより乗船し  
てメシユーン中將の防禦せる東アンガリア  
を襲撃せしむるにあり

千ヤ十解装の事

柴根：於けし千ヤ十艇長は露國の海軍者より  
武装解除を命ぜらるるなり

紅海の海

サハロフ將軍の報告：據ルバ八月三十一日及

九月一日の戦争：於けし露軍の死傷は合計  
七千にして九月二日：於けし其の損害は三千  
なりとあり

遼陽退却敵報

クロバトキン將軍の(報電)：曰くスタケルベル  
グの軍隊は九月二日の夜遼陽の西教キロメー  
トルの所まで退却せしむるに成功せしむるなり  
り之を爲め遼陽を放棄せしむるに至るなりと

同上列報

露都來電：曰く九月三日午後七時クロバトキ  
ン將軍の報告：據ルバ露軍の大部分は今や煙  
台の南方にありスタケルベルグの軍に之を合

先手を得たりと

九月六日

露國皇帝及び皇太后其他教名の大公クワンス  
クットに於ておールチフク艦隊を檢閲せり

ロイヤル艦彼得堡通信員の報告：據るに露國  
の聯合軍隊煙台の北方にあり一枝隊煙台に  
ありて其退却と掩護し居りる旨公表せりし風  
説ハ夜更くこの後クワトキンの後衛隊と  
潰滅し歸本部隊敵の包圍せし所となりて危

おールチフク艦隊  
親閲

露軍潰滅の風説

陰ニ瀕し居りりとありと云ふ

ロイヤル聖彼得堡通信員の報ニ據るに曰く露  
務會議々負元友院議員プラトノツフ氏アレ  
グエ氏の後任として内務大臣兼警視總監ニ  
ホウルを

露國新内務大臣

敵將の遼陽戦  
報

クワトキンの將軍は九月五日電報にて曰く  
九月四日夜遼陽より太子河の右岸への退却は  
能く隊伍を整へ之を行へり敵は微弱なる追撃  
を試みたりし我後衛の爲に阻止せしむるを  
日本軍は九月四日：至る兵力を増加し我軍の

左側：向て行動し煙台礮山より北方：直りて  
戦線と延長せし日本軍は太子河を渡りしペン  
スカの西にでてペンシホウ奉天街道の方向に  
向へるが如し尙ほ九月四日中遼陽至：其附近  
より七渡河せしと  
尙ほ目下露国聯合軍は退却掩護の爲め煙台：  
止めたる枝隊を除き他は凡て煙台の北方にあ  
る旨公表せしむるなり

△ 日露戦争を終局せる爲り外交上の干渉起らん  
と云ふの風潮は未だ一も其根底として認むべ  
きものを有せざ

△ 露国の主戦党は叫喚し始りたり而して其主張  
は死に至るまで戦いと進言せんとす：ち

△ クロバトキの將軍の信用は露国に於し今更の  
如く動搖しつち

九月七日

聖彼得堡より露国通信員の電報せる所：據ん  
は曰く日本軍は奉天の市街を距る二十五哩内  
にあり同地撤退の準備は既に初りしなり

関部は哈爾濱に移さる

俄國巡洋艦スモールレンスク・ピーターズバー  
グ共にサンジバール附近に發見され俄帝より  
訓令之を傳達する西艦直にクロンスタットに  
向け歸途を就けり

△ 聖彼得堡よりカ報：據小バ曰く

俄國人民は漸く其実情を評せしむるに至り  
ノイゲオウレミヤは少く辭を婉曲にして  
官僚政治に批評を加へルは敗退の状を藏み  
左に即ち恐慌を生ぜしむるに因なりと

△ プレキシール總督哈爾濱に歸着せり

マルヤールエウ同盟罷業は落着き

ロイヤルの橋手たるホムジバール電報：據小  
は英艦フォートスルピーター・スモール  
レンスクを發見して之を俄帝の訓令を傳達し  
西艦とも政令を向け其歸途を就けりと云ふ

ラレグラフは論じて曰く日本の勝利は全世界

民の曾し疎したることある最し異常なる武勳  
の一に算へらるべしものなり東洋の歴史に於  
ては遠く其比類と見らるる能はざるべし日本  
に此一挙に依りて忽ち其大強國たるべき要求  
を實に得たるものなりと云ふ

ロイヤル聖彼得堡通信員之報に據ればバヤン  
艦長ワイルン大佐ウクトムスキー少将に代り  
旅順艦隊司令官に任ぜられりと云ふ

獨逸戦果家之所見に曰く露國は満洲に於ける  
既失陣地の回復を努むることなく徐ろに明春

と期して浦塩斯徳より朝鮮に向て進軍を期し  
と

クロハトキンが遼陽より一時退却せられたるは  
退却の巧妙なるものと認めらる

日本軍の追撃に就ては兎角の批評あるを免れ  
尤或る軍事専門家曰く日本軍は是迄往々追  
撃戦に於て緩慢なるとを示したるなりと

九月八日

クロハトキンの報告を所に據れば曰く露兵

の大部分は既に奉天に達せり同地を以て一時の停留地と爲さべく防禦陣地には兵負配置さるる等なり西方に出兵せし日本軍目下主として露軍を追害せしめたりと雖も露軍は既に之を遮断せしを得たりと然るもロイヤル奉天九月六日度の報に曰く露軍の一部は其本隊と遮断せし昨日より昨夜ニうけ常ニ危険の状にあり日本軍は丘陵より絶えざるを砲撃し居たりと

セントレツジャー競馬の結果は次の如し  
第一着 プリツキー  
ホリー

第二着 ヘンリー  
ファースト  
第三着 アルムスクリフ

クはハトキン報告に曰く昨日黒木軍は鉄道の東方二十五哩奥軍は同じく鉄道の西方三十哩の地点にありき露軍は奉天附近に集中し殿軍は其西南十七哩の地点に達したるを絶えや日本軍と接觸し居り戦闘止む時無しと

露園内務大臣プラトノス辞任したるを以て少イル十知事スウイアトホルクミンスキー公

其後を襲へり

波羅的艦隊揚言

△ 露國は今日：至りても尚ほ笑ふ：堪へたは波羅的艦隊派遣計畫を揚言しつゝ、ちゝ其揚言：いふに同艦隊は四十隻の船艦より成り十二月十三日を以て旅順に到着せしむと吹聴せらる

鋼鉄板の注文

△ カイ子ギリ製鉄工場：は日日本より白銅及び鋼鉄板の注文を受たり

九月九日

露帝の艦隊検閲

△ 露帝は昨日ポールキウク艦隊を檢閲したる艦隊は明日出航せしむと信せらる

バヤン艦長ウイレン少將：陸進し旅順口司令官ウクトムスキー公に代り

カイアサの解散

△ 柴根らり公表せり：度々依れはカイアサの武裝解除は開始せしむる案は収容せしむるに云ふ

露國の公報

△ 三日同クハトキンより更に報告なく此事露人を以て悲觀的なるにむ



△ タイムス新聞のクロンスタフト通信員は親を  
なして曰く有力な遠東艦隊が波羅的海へ  
出航し得べし望みあることなり何とせんバ波  
羅的海艦隊に多く苗式方勢の軍艦より成り有力  
の艦隊と稱えべきは抑うり存在せざる  
はなりと

クロンスタフトよりロイヤル社に達したる報  
道に依れば波羅的海昨日ホーランド艦隊に属  
する艦艇を一々査閲ししる艦隊に來る土曜日  
(十日)發航をべしと豫期せらるると云ふ

聖彼得堡より公報に依れば日本人は去る六  
日コルサコフ港に來りノールウヰクに沈置地雷  
を装填しし然れども露人の發砲に其爆発を  
妨げたりと

ロイヤル電報に據ればリアブノフ陸軍  
中将は九月七日左の通り波羅海へ電奏せしと  
云ふ

九月六日午前六時より三條の黒烟近づき來り  
を見し其コルサコフ港より八キロメートル  
(約二里)以内に来り投錨せし及び積分遠  
隊は陣地を就けり侵入せし汽船は何れも約六

千噸の日本運送船二隻なると認めたり  
二隻の小汽船は同船より送る小ノイワク  
に向ふ午前十時十五分該船へ到着せし而して  
同艦々橋上ニ日本水兵の行動を了るを見り是  
ニ於て我分遠隊司令官は右小汽船並ニノイワ  
クイワクの甲板に對して射撃を命じたり敵は  
我射撃の正確なるを爲め其目的を達せしこと  
能はざりし故に一齊射撃の後日本人はノイ  
クイワク甲板を去り三千ヤード（約二十七所）  
の距離に達せし追撃火を蒙りつゝ本船  
ニ歸向したる敵亦我射界を離れし近我を射撃  
せしれ秋、一ノ損害なり日本運送船は小汽船

を収容の上正午を以て抜錨出港せし我分遠隊  
司令官は午後一時三十分若干の將校と率及ノ  
イワクイワクの甲板に急行せし日本人の遺棄  
せし一ノ小銃及び敵の敷設せし機械水雷に連  
結せし電線を見せし右機械水雷はノイワク  
ワク艦體の諸部分に敷設せし小左し爆発に  
至らざりしを以て電線と共に之を除去したり  
而して斯く除去せし水雷の数は今迄の慶九  
個あり

九月十日

在奉天ロイテル通信員の報告に曰く  
 夜軍の退却は無事遂行せしむるに日本軍は夜  
 軍の重大なる悲境を利用するを能はざりし是  
 れ恐らく疲憊の極に達したるを慮めたるん  
 遼陽奉天間：於ける夜軍負傷者増加し数千  
 字社を働かしむること其極度に達せし  
 従来憐なる状態にありし夜軍の輜重は頗る見  
 事なる働かすとなせし  
 夜軍の慣人居らざりし高粱は日本軍に對し殆  
 ど計るべからざる味方となり夜軍の突石中の  
 重なるもの若干は之の周囲をとり

馬耳塞の同盟罷棄は之を廢棄す可しと決議し  
 左の拘はうを尚ほ固着せしむ引續き商議行  
 はす

ロイテル通信員が報へ來し所：據んば九月七  
 日ラツサに於て英國西藏間：條約遂に調停さ  
 れたりと云ふ

夜軍はエワドリツクテールに對し眞率に賠償  
 金の支払を承諾せし

スガイヤトホルゲ ミルスキー氏は博愛開明

の名称する人なり氏の内務大臣：新任たるは頑固派の殿北なりと認めらる

最近三四箇月内：於て夜國政府の爲り：四十萬乃至五十萬噸の石炭カーガフに於て買取らばなり多量に既：マニラに向け其途上：ありマニラに即ち其仕向け先なり一噸：對し百十志の代價支出せん此石炭は浦塩斯德に向け送りらるしとのなりと云ふ

九月十一日

△カーチクワヨリの報：據んハ夜國ハ過去三箇月間：於て優：五十萬噸：達せし船用石炭を買入れたり内總額二萬七千噸：は五隻の汽船之と分載して近くフイリフロンに向け出度たり船名ハフォックスマトンホーン、サルファード、アポツロ、エケア、ウイール、ナナリ

△聖彼得堡：於て今發表さる、所：據んハポールキツク船隊は軍：地中海巡航の爲り：出度せんとのなりと云ふ

△聖彼得堡<sup>軍</sup>市民の有力なる代表者陸軍省を訪ひ全

樗連と露國の關係

一月間露軍の擡言：國境に報告を隠蔽し  
たし：對し抗議を了す所ありき

露國新公債四千萬磅は全部樗連によりて引受  
けしるべきと云ふ擔保は露國の極東内地税に

○露國四命利付公債は空前の最低額：下落し  
彼得堡に於ては右株式のみを暴落を來せし

九月十二日

露國公債の暴落

遼陽諸報の  
述評

△當地に到着したる諸種の通信は遼陽の会戦に  
實に恐ろしく劇烈なりし事と、日本軍の勇猛  
無比なる能く塹壕に依りて防禦し居たる露軍  
の陣地を強襲し、遂に之を奪取したる事とを  
證據として

新報と露國の

△露國は公に其國民に向ひ軍隊の居るに祈禱を  
せんとし命令し、去るも天は之を根受せ  
て明らに之を看過し、如くして天は只  
自ら助くる者と助くることとを事實上に證表し  
つ、其のとり取決法なり

極東艦隊の移駐

△ 聖彼得堡より少報道、依れ心アレキシーフは  
辞職し去ると云ふ

露國艦隊の出度

△ ボーレルフの艦隊出港し去り其向ふ所はポー  
ルツク海よりバウ港なり

変装せし日本人

△ 変装せし日本人二名聖彼得堡に到着し去り海  
軍将校たりんと信せらる

露艦乗港到着

△ 元々ルソン渡と云ふ後巡洋艦に改装せしを  
露國巡洋艦十隻乗港に到着し去り表面上  
石炭欠乏し去る不慮なりと稱す小し其事

実なり米國は其碇泊時局と制限あり

仙國汽船の難破

△ 仙國エムエム會社汽船ライムス號安南沿岸に  
於し難破し去り

美國海軍の意圖

西支戰國相互の伎倆に對する英國の意見並に  
露國の軍略を蔑視せんとす今日迄の傾向の  
上は甚大なる變化起らんとし批評家は宣言し  
て吾人は茲に初りて戦局の前途に憂を有る吾人  
の從來の意見を多少改めざる可からむと曰ふ  
其成行に就て疑心を揮むもの如くテリリー  
テレグラフは大山はクハトキンの不撓の

戦畧：依り全然失敗し去りと曰へり

夜国ノ豫備兵集

夜帝は新：オデワツカ管區二十二箇所の豫備兵  
並に全国の豫將校の一階級を召集し去り

南極探検隊船運

南極探検隊フェイスカゲアリー號ボイワマス港  
に到着し多数の科学家之を歓迎し去り續いて  
ボイワマス、倫敦市民の盛大なる歓迎會あり  
去り

夜国皇帝は成功し去り企業を賞して共ふ可き  
特種の賞牌を鑄造し去り余り

夜国艦隊の出度

ボイワマス艦隊はワロンスタフトと出度し  
去り其向ふ所は極東なりと公言せり

探検者の昇進

南極探検隊フェイスカゲアリー號の司令スコッ  
ト中佐は大佐に昇進し去り

夜国ノ米國看

夜国運送船十號浦場より桑港に到着し去り

大統領候補直志

ルースケルト氏は大統領候補者：指名せら  
れ去り承認せらるに際しハブリアン党の外  
文政畧は平和を脚成せりとのなりとし之を辯  
明しワイリフビンの放棄は災厄を胚胎せしむ

可しと宣言せし

九月十三日

シナ目的と米國

吾國巡洋艦シナ目的は日本への船隻を監視  
するにありと信せらる  
米國太平洋艦隊はシナ目的と尋問をべしと  
訓令せしむる

其後の軍状

九月十日附在奉天口より通信員の報道に依  
りて吾軍の一部は鉄峯に退却と始りたる日本  
軍の前進は遅緩なり軍事的形勢は吾軍に取

不可ならざり

敵軍圍長捕獲の報

モリニンググ ホストは倫敦に接手せしむる  
露國公報はホスリツク將軍が渾河の南方に於  
て五千の敵軍を指揮中負傷して兵三千と共に  
捕獲せしむるを公言せしと記載せし

シナと日本の抗議

桑港駐在日本領事は米國政府に對しシナ領の  
二十四時間以上碇泊せしと許したるに付て抗  
議しし

奉天の隔年期  
(附新聞通信別紙の  
苦情)

△  
ダイリリー  
ラシ  
ガラフ  
遼陽通信員八日附電報



○黒木軍は西より奉天に向つて方向轉換行動を準備しつゝ、ちり奉天は三週間以内は落つべし見込なりと新聞は日本の通信機関は軍制限に因りて政治上の大なる缺點なりとて過酷の批評となり泰西諸國は懲る行爲に對し決して同情の念慮を刺撃する能はざるといへり

九月十四日

在聖彼得堡より通信員が公報ならざる計算なりとて報道せし所は依水が遼陽の戦闘は其後の敵軍の損害は四萬に上りて此損害は多

大の援軍を以て續々補填せしむつゝ、ちりといふ又考徳如部の詰る處に依水はハトキンは遼陽の戦闘以来更に二箇軍團の兵力を増加せしむ今や優に三百門の大砲を有するに至りし依水は莫大なる軍隊の奉天に集中したる爲め貯藏糧食は耗盡し既ら頗る甚しき輜重隊の過勞に退却中多量の糧食失はれしに依り益増大せしむる極雨は當分更に戦闘を行ふこと能はざらむ可しと

機關師十の汽罐を検査し其不良の狀態にあ

カムカム障使用の  
無実

とと度見せし

曾て遼陽にあり日露海軍、従ひ居たりしガ  
ラフ新聞の通信員は皆共ニ露兵ガカムカム障と  
使用せし事実なりと稱す

シカゴの小賣相場は考作の悲觀的豫想に動  
き小又ルヤ恐慌を來せ、至少ク價額はラ  
ク一買占以來の高價なり

△アレキシーフの友人は稱して曰く同人野彼得  
僅ニ還リラムスドルフに代りて外務大臣た

米國の小麦相場

アレキシーフ評伝説

こべいと

△哈爾濱に於て治療を受け居りし負傷兵既ニ二  
萬五千の多きに上りし説あり

露軍の負傷兵

カルカス 號別次

△浦塩斯港の捕獲審核所はカルカス號の搭載せ  
る日本行麥粉材木棉花を禁割載貨なりと判定  
し没収せし同船は其上告中同地ニ抑留さし  
るなり

以上の別次は食料品と禁割品目中にありし  
と、対して美國の抗議と無視しをりしなり

△ 獨逸は日露間、和議を講ずるに際して露國を  
援助し其報酬として露國は獨逸の極東に於け  
る野心に自由を與へべしとの協約を内審、兩  
國間、成立したるに證跡あり

前日露艦が旅順を脱出して膠州灣に逃竄した  
る目的及び同艦が今日同地を通過する事、日本  
及び其他列國の警戒を怠るべからざる大事なり

△ 日本は注文により目下米國マサチューセツツに  
於て五隻のホルランド式潜航艇建造中なりとの  
報あり

九月十五日

浦留斯德捕獲審檢所は其中立貨物と共にカルク  
ス號を釋放せり但し日本領の麥粉、棉花、  
木材は之を没収するものなりと判決す

クロバトキン將軍は初めて八月廿八日より九  
月五日に至る迄の露軍損害を略算して其公費  
を發し之を以て戦死四千、負傷一萬二千なり  
と算せり

米國政府はしつと以て短期間：余港を去  
る然らざれば其武装を解除せよとのなり  
と居せり

露國巡洋艦は昨日セーントゲインセントとジ  
ブールターの中間に於て英國汽船ゲーラエ  
ント號を撃り奪せたり

日本に對する英國の態度は依然として變化せ  
ぬ最も二三の批評家は日本軍が露軍を包圍す  
る能はざりしとすふ理由を以て遼陽の勝利  
を輕視する傾向を示せし此失望を以てや露軍

るは是れまじに於ける日本軍の成功：刺戟せ  
る小たる彼等をして今回も亦敏速の大捷を収  
むべきを期せしむる信任に對して聊ち自然  
的の反動を生じたるに過ぎざるなり

露國側の諸報道は皆黒木軍の旋迴運動なり口  
ハトキンをして退却の已むを得ざるに至らし  
め且つ終に旅順救援の攻撃的作戰計畫を放棄  
せざるに至らしめたりと曝露せり

九月十六日

和蘭の海軍

聖彼得堡に於て發表せし所、據ルバホルン  
チワク艦隊は其進航前暫時リポートに止まり居  
たりと云ふ

地中海西口の艦

昨日報に在るカーウエント號の外、英國巡洋艦  
テレワクは九月六日に於て同トく英國汽船マ  
ーガチーレーベン號九月十二日に同トくワレ  
カーグアード號に停船を命ぜり

桑港の艦

レナ號船長ヘンリンスキーは米國官吏に通告  
して武装を解除し戦争終局に至るまで桑港に  
止らんことを希望せしと云へり

敵將の戦死

九月十五日

クハルトキンの報告に於て、據ルバフォミン  
將軍は戦死したるといふ

西交戦國の財政

タイムスは西交戦國の財政状態を論じ戦争の  
継続は日本より甚く露國に取つて更に大なる疲  
憊を與ふべしと云へり日本は財政に於て亦た  
軍備と等しい科学的準備と有るもの、如  
いと云へり

九月十六日

マクレーン嬢逝く

△ 日本水兵の慈母と稱せし小マクレーン嬢逝  
去せし  
(去十三日を以て死去)

九月十七日

禁制同然の陸海軍

△ 我國ハ公然今後絶対的戦時禁制品と條件付戦  
時禁制品との間ニ區別を設くるニ決し食料並  
に敵國の政府若しくは陸海軍ニ仕向けらるる  
ものの限り捕獲せしむると得可く其私人ニ仕  
向けられたるものは捕獲を免るべしとなせ

浦島捕殺審檢所は若干の場合に於て捕獲規  
則と誤解し居たりとのこし今やラニスダウ  
ン島の争議に答認せしむるべしとならん

△ 聖彼得堡の信憑を可き筋の公言せる處に依り  
ハ達陽撤退に至る十三日間：於て我軍の損  
害は將校二百五十八名、以下二萬千八百名な  
りとす

兵隊の損害

△ 西藏は英國に對し五十萬磅の償金又松並に三  
箇年同英國軍隊がチムンビハ溪原に駐屯せし  
に同意しん

英藏條約

伊國皇子の誕生

△ 伊太利皇位(永)継者昨夜ラフコニフ宮、生れ  
レエトモント親王フンベルトと命名を伊太利  
と通じて大々歡喜す

奉天撤退の宣言

△ 巴里ジョーナルはラフコニフ宮に奉天を撤退  
して鉄峯を引上ぐ可しと云ふことを宣言せるが  
得(彼)僅通信を掲出しなく

南極探検船の帰着

△ 南極探検船「イヌカガア」號は三年間、  
直に成功せし航海となりて倫敦に歸來す

ホールクワフ艦隊  
の出度延期

△ ホールクワフ艦隊の出度期は又、六週間延期  
せしめたる下林の警官は其動靜を探偵す

レナ船長の宣誓

公報に依り「レナ」の乗組員は米國に對し宣誓  
せしめらる可しと

伊國の皇子誕生

伊太利皇后陛下ラフコニフ宮、於て皇子を生  
りて「ピエトモント」親王フンベルトと命名す  
らる

日本前衛の進軍

ラフコニフ宮に電報して曰く九月十四日は戦闘  
無き強大なる日本前衛艦隊停車場の北方に

旅順包圍軍の  
西進援軍

戦時禁制品同様の  
状況(別報)

ロンドンに進軍しつゝと

スラフセル電報しつて曰く日本軍は旅順口の西  
面ニ於て援軍を受け引續き砲撃を爲す然れども  
其損害は記さず是れを

在野彼得堡ロンドン通信員の報道ニ依りて戦  
時禁制品ニ関する露國の決議は英米大使館ニ  
通達せしむる而して露國は食料品は個人的  
當事者ニ仕向けらるる時ハ戦時禁制品とな  
らざり政府若しくは陸海軍の需用品たる時ニ  
限り戦時禁制品となるとの主義を認めたりと

信せらるゝと

秋分捕品の各走

太平洋岸の露國  
巡洋艦

遼陽戦争と露國  
の感情

クハバトキン江大山將軍の報告ニ所謂日本軍  
が遼陽ニ於て多量の介捕品を得たりとあるは  
公然否定し其捕獲せしむるものは二輛のト  
ロツクのみなりと断言し言を極めて露軍のタ  
ムダム障を使用しつゝといふを否認しつゝ

露國補助巡洋艦コレイ號晚香坡洋ニありとの  
報あり

日露両方より来る評報は遼陽ニ於ける勢を



可き戦闘至、其結果、孰き今や公衆として當  
初の報告より七更に正鵠なき評價をなさしむ  
即ちクロバトキンと全然殄滅を可しといふ積  
極的豫想の少しし実行せざりしとはクロバ  
トキンの行ひたる首尾克く退却と相待りて美  
国公衆の感情の傾向を沮却しきり夫の日本公  
債の下落し露國公債の騰貴したるは其明白な  
る證據なり

九月十六日

ガンジバーに在るロイヤル通信員の報道：依

ルバ露國勇艦スモールレンスク並にヒーター  
スバーグは去る十六日正以し出帆したるが之  
を監視し居たる英艦フォート號は右二艦不  
ンジバーと大陸との間を通過せしを認めざり  
しと云ふ或は南方に赴きたるものなりやも知  
れぬと信ぜらる

去る六日露國巡洋艦の居りし停船を命ぜりし  
たる英團汽船マーギットカシェーベル號コンス  
タンチノーブんに到着せし露國將校は同艦々  
長ニ對し附近に尚ほ九隻の露國巡洋艦ありと  
告げたり

ハイカル迂回線は本月未開通は可しと云言せ  
う了

△  
タイマス新聞は諱して曰く日本人は英國の目  
本に對する論調の變化と憂ふるを要せど英國  
にこれに別々東東に推測をなす如き一般感情  
の冷却せる徴候存せざらんをなうを英國人民  
は未だ曾て遼陽戦闘の評報に接し左の今日の  
如く然るく十分は日本人の勇氣と決断力との  
深度を測知し得たることなり云々

九月十九日

獨逸の半官的諸新聞紙は「獨逸兩國の間は泰  
接なる協商締結するを其主たる証據は露國  
の大汽船の賣渡しホルル午ツク艦隊及び義勇  
艦隊は石炭供給の契約青鳩避難は固を旅順  
口艦隊に對する協定及び公債應募の約束等な  
り云々」と居せりタイマス近日の所説に對し  
忙しく反論を試み居り諷刺タイマスは高  
は附言して最後の協定に至り露國が獨逸の支  
持を受くべきは殆ど信じて疑なきに似たりと  
云へり

英兵西藏撤退期

ビスマルク公危馬  
(副報)

ビスマルク公死去

ケルニフコエ  
ワアイワンガは即ち此所説に  
反対して戦争の傾向尙ほ不確なり今日斯の如  
き慢定を行ふは如きは獨逸に取つて狂暴の序  
なるべしと云へり

ロイヤルクラフツ電報ニ據ルハ軍隊の撤退は  
九月二十三日を以て行はしむ事ニ決せり

ビスマルク公危馬なり

△ヘルベルト ビスマルク公死去せり

西藏遠征隊の撤  
退

△ 西藏遠征隊は来る二十三日を以て其引揚に着  
手せり

ガライ喇嘛ラツサを遁走し去るを以て廢黜す  
ルタシラムポーシガフエ教王となり攝政清國  
皇帝の直言を奉じて停務を廢理する事となれ  
り

旅順救援の請願

△ 聖彼得堡より報ニ據ルハ「ガイレニア」提督  
旅順口を救はんを乞ふ即時ホールクフク艦隊  
を發せらるゝことと請願せりと云ふ

陸上輸送の中止

△ 西比利鉄道の軍隊輸送は既に四日間中止さる

ヒスマルク公死去

我同盟國の同情

是れくとの風説あり

ヘルベルト ヒスマルク公死去

タイムスは戦争に就て諱して曰く日本は全  
ンゴロサクソン社會より不惑不滅の同情を寄  
せうルフ、ちり、政州大陸諸國政府よりは免れ  
角し其人民の大部分よりは亦同様の同情を寄  
せうルフ、ちり

九月二十日

タイムスと成程  
密約

片使戦敵報

連日の小戦

タイムスは曰く彼令の否認さるるも  
に關する我の所報の大體に於て誤らざること  
は之を信ぜべき充分の理由ありと

クロバトキン報に曰く  
ソノツツム西將軍は重要なる偵察任務遂行中  
激戦に陥り巨多の損害を受けたりと

九月二十一日

ミスチエンの將軍はコサツク兵を率ひて毎日  
日本軍と小戦を爲し是れより近く多數の損害

と受けたる

敵國の陸軍部内ニ於ては戦畧上の要求ニ合せ  
おるまじし政治上の必要よりク口口トキ得  
軍が奉天ニ踏止るらんとして一般ニ希望し居  
たり

九月二十二日

二十日奉天復路透電報ニ曰く戦械ハ刻々増  
々日本は八箇師團以上の一多分九箇師團一  
兵を奉天へ前進しつゝ、今戸高粱は多く刈

去り小敵軍陣地の直前なる渾河の平原は西軍  
の砲火相交するニ最適良の地形となせりと

アージェンチン共和国政府は何等の軍艦の曾  
て敵國ニ賣渡すべしとを言明せり

八月三十日米國々御ヘイ氏がアラビヤ號ニ関  
する露國捕獲審檢所の判決ニ對して露廷ニ致  
したる公文書々本文は米國が戦時禁制品問題  
ニ對して取不し態度の確然動らざる可らぶるし  
のなきを明らさす同書は先か談判決が實際  
上中立國と日本國內の戦争ニ無らざる人々と

の同の貿易を破壊を心く又実力封鎖の必要を  
蔑視し戦時禁制品と然らばおしよりの刑と無  
視せしむるを宣言し最後は合衆国は全  
然斯の如き判決の主肯を承認せしむるに能はざ  
況ん之に黙從せしむるを中絶せしむるに能はざ

九月二十一日

△ 樞人の軍事批評家は日本軍の漸次攻撃力を失  
墜しつゝあると論じ且つ其の遼陽に於て側面  
攻撃部隊の劣勢なりし爲め成功し得ざりし所  
は奉天鉄峯に於ても亦之を能くせしむるを得ざり

へーと思考せしむるに至りし

△ 聖彼得堡に於てはクリバトキンを政治上の必要  
に駆り小奉天にて頑固の抵抗を試むべしと信  
せらる

九月二十三日

旅順に於ては頻りに旅順に用ひ石炭を要す即  
ち之に依りて飲用水の蒸餾を繼續せんとせし  
むるに於て同地の飲用水は専ら此蒸餾水を用  
ひ居りし

我國巡洋艦ヲシツクハ九月二十日ラスバ  
マス（カナリイ情）ニ於テ石炭ヲ積入ヲ初メ  
タリ政府よりハテシツクニ石炭及ビ糧食ヲ供  
給スベシラバ直ニ之ヲ出港セシムルノ令  
令達シテ同艦ハ機関修繕ノ爲メ出港ス  
ル能ハズ

△ タイムス軍事通信員ハ戦闘区域ニ於テ西軍  
ノ軍器上ノ利ハ双方五分々々ナリト説キ且フ  
曰ク之ニ加ヘテ西比利亞鉄道ノ都合ヨク運  
轉セシムルニ満州ガ近年稀ナリ豊作ナリト

△ とは今迄より一層ノ努力ヲ要スベキ  
我軍ニ對シ便宜ト無キこと大ナク日本軍ヲ  
其作戰計畫ノ目的トスル所ハ先フ有利ナル地  
点ニ在テ我軍ノ進撃ヲ来ラシメ奉天鉄峯ヲ  
占領スルニシ

△ 戦時禁制品と禁制品ニテチラカシムル、分界ヲ  
限定スル爲メ我國政府ニ依リテ任命スル  
特別委員會ハ直接ニ先例ト旦ツハ美國ノ要求  
トニ反對シ石炭棉花鉄材を以テ一切禁制品ナ  
リト決定セリ

△ 汽船「オクスアンホー」ル 號膠州：着、其積荷  
 左の石炭を橋速船エリカ號：積み移せりエリ  
 カ號は表面日本：向可出度しを、も実は復園  
 軍艦：其石炭を交附せん、と云ふ、セウチウと信  
 せらる、他、教隻の石炭船膠州：あり  
 復園の代理人は浦塩斯德：積送り目的を以  
 て近時造渡にリガブールに於て石炭を買  
 入れ居り、内幾分は英隆：香港：向可積出さ  
 れ、他、石炭船：積移さんと云ふ、セウチウ  
 て此等石炭船はフイリワロン 群嶋中の一無人  
 嶋を根據地とし、之に待受け居りしものなり

△ ラスバルマス(西班牙)領は復園巡洋艦テレ  
 ワクに石炭を附與せしことを拒絶せり

九月二十四日

復園巡洋艦ヒーターリスバーケ並にスモレンス  
 クはスエツに到着し、テレワクはラリスバル  
 マリス(カナリヤ)嶋を去り、其何れに向ふ  
 しやは不明なり

リガブールに於て浦沙斯德行石炭一噸：就  
 き二倍の運賃を支給せし、尚ほ此外封鎖を切



抜けて首尾好く浦汐に達するもカは一噸十五  
このリング花の賞金を無ふと  
カンターベリ―大徳正及びピアポントモ  
ルカン氏を乗せし華駝頭ニ向ひ―特設列車六  
十哩の速力を以て駛走中イーストブルックフ  
イールドに於て衝突し機関車は全く粉砕せら  
れた。此旅客は難を免れ大徳正の客車は線路  
上と離れずりき

九月二十五日

△ オムロフ將軍（樺太炭坑附近にて負傷せし）  
は高國軍隊より免職せしむる

△ 高國は其後更ニ宣言を出して食料品を以て條  
件付戦時禁制品となり石炭、鉄、棉花を以て  
絶対的戦時禁制品となせし

△ 米國軍艦三隻目下テームス河を訪問中ニ―乙  
グレイヴランドに於て熱誠なる歓迎あり

△ 米國テニソフに於て悲惨なる汽車の衝突あり  
死者五十名負傷者百名と出せり

西藏問題と英露の交渉

巴里の消息：通也の社会：於て行はし説：  
依れば西藏問題：固し意見の交換英露間：行  
はれつ、ちりて既：甚か満足な結果を来せ  
り此事延つて完全な黙契を胚胎せしむ可し  
と信せらる

激烈な總攻撃

聖彼得堡より巴里：達したる電報は日本軍が  
一齊に三面を攻撃したる後劇烈な總強襲を  
（旅順の總攻撃？）を行ひつ、ちり而して聖  
彼得堡にこれ多大の憂懼を懐けり

オルロフの免職

クロバトキンの判決：従ひオルロフ少将は  
其後更に審問を受くること無くして聖彼得堡  
に召還せらる小軍隊より免職せらる

西日開戦

クロバトキンは二十三、二十四の両日は戦闘  
ありと報告せり

露艦の到着

露国巡洋艦ポーターズハーグスモールレンス  
クはポーターサイドに到着せり

九月二十六日

露帝はウイエル十軍区司令官ゲリペンベルグ將軍を第二滿洲軍司令官に任命せり露帝の將軍に與へたる震翰は曰く「日本の戦争を行ひつゝある極度の根柢、日本人の頑強、優秀なる軍事の伎倆は最も短少なる時日に於て結局の成功を制せんが爲め眼を以て戦地を暴らざる軍隊を増加せしむるの餘儀なきに至らざるなり而して軍單位の多数なる不慮の満ち、於ける軍隊を二軍に分つとせむはなかり一をウロバトキンの手裏に残し汝第二軍を指揮せしむる多量兵役にせしむること並に軍事の勲功は汝がウロバトキンの總指揮に従ひ汝は委ねらるる

軍を指導して首尾克く戦争の目的を達成可きと確信せしむ」と

△ 英国外務大臣ラスダウン侯は戦開行爲を目的とせる露國の船舶に對し英本國又は各殖民地の諸港に於て石炭を供給せらるらざることと英國の各商社に通告せしむるが恰う此之と正反對にて獨逸キールのフリーデリクセン商會が露國船舶に石炭供給と約せしむる一事は露獨兩國の關係上注意せべき事件なりと思考せらるる  
△ 在聖彼得堡陸軍通信員の電報によれば露國は

糧食と條件付禁制品と認め石炭は絶対的禁制品と主張し且つ英國に向ひて他の領物は成るべく寛大、取扱ふべしと保證せし本件は固く最近の決定以前に捕獲せしものは彼得堡の高等捕獲審判所の審議に附せし

△ 来年度の獨逸海軍隊員は二千名の海員を増加せし

△ ルーヤバルト大統領の華取頭にて萬國平和主義者の會合に臨み近き将来に於て今一回海牙會議を催すべく列國に通牒せしと演説せし

△ 近頃任命されし韓國外交顧問スラベンソン氏は去る土曜日来團大統領と會見し昨日華取頭を出席せし

△ 我勇艦隊ペトロリスブルグ、スモレンスクの二隻はポートサイドを去りペトロリスブルグは石炭三百五十噸をスモレンスクは百噸を右積入ルを許さる其行先はリボウなりと

△ 予レワウはコロンボ行の汽船は4ライに停止を命じ證書を検査せし

琉球と日本

シドニー産行メル新聞の報に據ルハ琉球駐  
邦政府は日本商人学生漫遊者等の居留に外人  
入国制限の條規を容赦せしむるに決せり但し多年  
在留せんとせしものには特別の許可を受けしむる  
べららざるを云ふ

カシターベリ大僧正は華聖頭の大統領官舎  
に於て晝餐を饗せしむる

九月二十七日

米國に於ける  
僧正

第二滿洲軍の見方

クロバトキン、グリペンベルグ兩將軍は共に  
アレキシーフ提督の下にありて對等の位置に  
あるもの、如し

クロバトキンの電報せる所は據ルハ日本軍は  
奉天の東方に於て優大なる轉回運動を準備し  
居りベニアプリーツエの東北十二哩カオワー峯  
隘路を把獲せんとし教回計畫を試みたるも  
皆撃退せしむると云ふ

奉天附近の戦報

米國の干渉説

信用をばさ評なりとして華聖頭府に傳へらる  
る所は據ルハ米國大統領ルーズヴェルト氏は

件 西班牙領土

戦争の終局を待たせ明春早々海牙會議を召集  
せべいと云ふ

表艦テレワク流リスボンに着せり  
マドリット府エスバト新聞の傳ふる所ニ據ル  
バ曰くラリスバールマリスに於けるテレワク  
流ハ慶分は英國大使半官的ニ西班牙政府ニ對  
シ西班牙の領土若シ英國商業を妨害せんとな  
るもの、根據地ニ供用せしむることあらば英國  
は抗議ある所あるべしとの意を致したるニ依  
る石炭の積入は既に初より小量なりし之を爲  
り中止せしむる事したるに力なりと

九月二十八日

義勇艦隊の出帆

夜間義勇艦隊ニジニエーノゴゴロウドはウンガ  
ア(クリート島)ポートサイドへの途次ゲー  
グチルズを通過せりポートサイドに至り其訓  
令を待つ等にして商船旗を掲揚し一の大砲又  
は軍器を有せり

前電西班牙新聞エスバトの報は公然倫敦ニ於  
て否認す

西領及艦隊

英軍九月二十二日を以てラツカを撤退を撰政  
マクドナルド將軍ニ對し頗る鄭重なる手段を  
以て英軍の佛堂を侵さざりしを謝し之ニ黄金  
の佛像を贈る

有名なる獨逸のシハウ商會は中支邊境の責を  
非ず、たゞ夜國のりが港に於て若干隻の水雷  
艇を建造しつ、ちり々つふ

アレキシーフ報告して曰く  
旅順口の形勢は危殆なり守備兵は前週重大な  
る損害を被りたり（其詳細は公ニせうれむ）

糧食は饒多かりと雖も彈藥は欠乏しカーニ式  
攻城砲は使用し尽して廢物となつくと

ニコラス太公極東ニ赴うんとを蓋し表面上の  
名義は視察を爲し實際の現状ニ就き露帝ニ報  
告を存せしむるなり

獨逸石炭船三隻カーゲツフ炭一萬噸を搭載し  
てカナリイ嶋ラースパールマスに到着し訓  
令を待ちつ、ちり

彼彼得堡より報通ニ依ればベトナムは

召還せしむるなりと云ふ

△ルス新聞は日本の実力を輕視をべしと云ふと公衆ニ警告せしむ

今一し知了  
駐米大使の照会  
司令官の病氣

在聖彼得堡ロイヤル通信員が報道せる所は依  
ルバ美國駐劄英國大使ベンケンケンドルフは西  
藏條約卒業と豫て美國をなせし證言との間  
之よりと稱せしむ相違は聞し英國政府は對  
し友誼ある照会をなしをりと察せらるると云ふ  
ボール4ツク艦隊司令官ロジエストウエンス

キー提督に病氣は罹りし

奉天方面情報

在奉天ロイヤル通信員の報道は依ルバ曰く騎  
兵前哨の報告は依ルバ大部隊は日本軍鉄道の  
西方に運動し攻撃を爲さんと云然れども東方  
には變化なしと云ふ

九月二十九日

獨逸の石炭船

石炭を搭載せし獨逸汽船三隻ヲナリツフ（カ  
ナリ）群島中の一ニありし訓令を待ちつゝ  
あり



高麗船の軍隊

ガリケ子ルス海峡を通過したる、夜間、我勇艦ニ  
ジニ一ノブゴロツド號は千名の兵を搭載し居  
たり其一部はワリート嶋守備兵の交代ニして  
高麗同地ニ赴く兵員ありべし

明治三十七年十月分

路透電報集

附倫敦特電

十月二日

美國總理大臣ハルフォード氏はエジンボロ  
に開演されたる保守党の饗宴に臨席して故ハ  
スコット氏に對する哀悼の辭を述べ且つ國民  
党と保守党との間：默契ありとの感想を否拒  
し曰く予は箇人として保護説者：あらば現存  
情態の下：ありて保護主義の最良策：あらば  
若く保護主義：ありて採用さしむ：於ては政  
の主領として得意に存する事能はざるを  
認むクエリンバレーン氏殖民地の提議を以て

可なりとしをうけ或は不可なりとしをうけは  
予の知る所はあらば予は英園今日カ位置その  
苦境を脱せんとす唯一の手段は印度地  
と腹臍なき会商を遂ぐるにありと云ふ點  
於て氏と一致しをうけたりと

九月三十日

九月二十九日附クハトキン將軍の報告は曰  
く日本軍は東方南方及び正面の全線に向て攻  
勢を出で始りたりと

米園華野頭より米電は依北ハ清園北京駐副  
米園公使コンカハ氏の電報は曰く清園政府ハ  
漢口鉄道の重慶ニ延長せうとす當りて若し  
資本を要するをあるときは英米両國人は優先  
権を與ふることと約せしと曰フコンカハ氏は

露国大敗と英  
海軍

米國資本家：して此企業、從事せんと意あり  
る中、各中：関し速に知る所ありんと欲する  
旨と云へり

△ 露國海軍の損害を受けたるを理由として英  
海軍擴張案を收縮せんとするの計畫あり之に  
對して英海軍省は此の如く賢らざらざる節約  
政策は之を公衆に勸むる能はざるといへり

十月一日

九月二十八日黒木軍附屬倫敦スタンガード戦

外國通信員の見

時通信員の報：曰くクロバトキン將軍の主力  
は奉天の北方鉄峯に向つて退却せり尤も歩兵  
の大部隊は尚奉天の南に留まり日本軍の動靜  
を窺ひつ、ちりと

樞密諸新聞紙の報あり所にては樞密維廉ニ由  
り來り十一月英皇エドワード七世を訪問せ  
んとす

五隻の樞密石炭船昨日カーゲフ及びニニホ  
ートを出発しポルトブラヤ（サンチヤゴ島）  
に向へり此は露國に石炭を給せんを慮なりと

美樞密帝会见記

樞密の露國給炭

ロイヤル聖彼得堡通信員の報ニ據ルハ第二滿  
洲軍は第四、第八、第十六軍團、第六西比利  
亞軍團及び祖魯兵若干旅團より成るものなり  
と云ふ

アレキシエフ總督召還さるんと云々の風説也  
リニコラスニコライヴイフ大公之弟後任  
なりと一一般ニ信せらる

俄國皇太后、皇后及び希臘國皇后昨日リホー

に於てホールチツク艦隊を檢閲し俄國皇帝は  
オデワサにありて二萬七千の陸兵を親閲せり

聖彼得堡の半官報は「俄國は西藏條約を承認  
せしむ能はむ又承認せらるるを同條約は英團  
政府の背信を示すものなり」といふ如モスコ  
ー新聞の論説を轉載せり

俄帝は極東派遣兵檢閲の爲りオデワサに到着  
せり

俄國參謀本部は曰く日本軍は九月二十日より

同二十六日：至る間：旅順を強襲せしむる處  
共撃退さるたりと

十月二日

△ 在聖彼得堡巴里新聞通信員の報告する處：依り  
ハ清國駐劄露國公使レフサハハ清國を以て滿  
洲鐵道を購入せしむんとし運動中ニして清  
國シニケケイトとの談判進行中なりと云ふ

△ 露帝は更ニ極東ニ赴く可き命令を受け左る才  
デフサ、ケラスポルニ二軍團を檢閲せり

△ アレキシエフは外務大臣ラムスドルフ伯の後  
任となすべしとの風説再び盛なり

△ サークウイリアムハートコートは睡眠中突然  
死す一昨朝に至り其死せしこととを發見せしん  
たり

廿八日ハ九月三十日附を以て報告して曰く騎  
兵ハ渾河附近の村より日本軍を驅逐し彈藥糧  
料品を搭載せしジャンク十七隻を燒燬し援軍  
を得たる日本軍の近づくに敢て退却したり曰

本軍は今尚ほベンシクに依て太子河を渡りし  
未集しつ、ちり多敷の馬賊依然日本人と共に  
ありとのことなりと

十月一日付在奉天ロイヤル通信員の報に曰く  
日露西軍の久しく活動せむるは新なる形勢の  
作ら小なるものなり遼陽の戦闘は確に戦年の  
第一期を終結せしむる日本軍として新しき戦術  
を施ししむるに至りし即ち日本軍は塹壕を掘  
削しつ、ちりかちり彼等は東方に於て或は側面  
攻撃を試みることをせうんと

グリペンベルグは一箇月内は満洲に赴く事な  
り  
皇帝はホーンチフソ艦隊に告別を了るる十月  
四日リウアル(フインランド海にあり)に赴  
く可し

サーウイリアムハーコート去る土曜日幕  
中死せること産見せしむる斯く最後を見  
る可しとは全然豫期せしむる所なり

十月三日



故サ一 ウイリアム ハーコートは来々木曜  
日頗る静にナンキヤンパークなす累代の墓所  
ニ葬らる可く只近親の者及び借地人の之ニ列  
せらるちこのみ英国皇帝は未亡人ニ対し極りて  
深厚なる電報を産し「朕は價值ある苗友を失  
へり」と曰ふ新聞紙は考て氏を偉大なる国会  
議員なりしとて称揚し氏の尽力たる所ニ対し  
鄭重なる尊敬を表せり

○ 倫敦タイムズ東京通信員は日本ニ対する各種  
の物議ニ就て論じたる中ニ遼陽ニ於てハ絶對

的ニ操奪の行はれたるをなく英国宣教師ウエ  
ストウオークター氏ニ対する攻撃ハ畢竟暗中ニ  
誤認したる人違ニ外ならべウエストウオーク  
ター氏ハ日本軍の軍規ニ対して非常ニ賞讃し居  
りしといひ又英国觀戦武官ハミントン中將ハ  
何國の軍隊ニ從属したる外國武官も同中將不  
今日日本軍より獎へしを如き殊遇を受け  
たることを嘗て之なるべしと聲明せる由を報  
ぐ

十月四日

△ 聖彼得堡路遠通信員より、の電報に曰く、露國戦  
闘艦ウオーレルはクワンスタフトに抜錨し、深  
瀬に乗り上げたり、損害は大なるべしと考へらる  
徐々、動き、クワンスタフトに引還し、同地、  
止まり、同港司令官はウオーレルを助くる不  
在、行くに及ばざる、昔各軍艦の艦長に命令せ  
り

サハロフは日本の前衛隊が奉天の南東を、フ  
エンツイアブを包拵せしことを電報したり

奉天ありの最近の報告は形勢が不変なるを示

去

聖彼得堡より、の報通は区々、一、或は軍事當  
局者は同くなく、戦闘の之あり可きと豫期せし  
宣言、或はクワントンは鉄巻に退却の準備  
中なりと報せ

十月五日

西藏遠征隊に寒気と欠乏との苦難を具へ、嘗て  
十月二日無事カロラ隘路を通過せり  
漏網たり所、據小ハ西藏條約に清國駐藏大臣

に依りて調停さるるにあらば同大臣は即ち之に當るの権能を未だ北京政府より受け居らざりしものなりと云ふ

英國總理大臣ハルフォード氏の所言に「前電に漏れたるものを補足せん」云々の如し予は印度及び自治諸殖民地に代議負を廢せしめ何等の訓令を以て之を拘束せむと思ふ終に英國ハ之と合し以て財政同盟組織の議果して時宜に過るや如何と討議せんことを欲し其上に於て若し之不可ならざるを見れば如何にして施行さるべしやと研究せんことを欲し右會議

の議決は各自選擇地民に提示さるべしと云ふこと亦明白に諒知せんことを要す云々のラフサ條約の事：同じ印度事務者は説明して曰く右條約は尚ほ印度事務者の批准を待たざるべからざる條項等未だ全く決定しざるにあらざるなりと

ハ 京都駐劄英國公使館附武官ムラン 將軍は滿洲に於ける日本軍の戦術を觀して曰く遼陽攻撃の際に於ては何等千八百七十年に於ける獨逸軍の如き敏捷なる動作を見れば海城得利寺の如

き一種の遭遇戦に遇ふた。ちりては一  
に其の兵負の優秀なりしに由りて勝利を占め  
得たるのみ黒木軍が太子河を渉れは非常の  
失策にして同軍は之を盾の當然撃破せらるべ  
かりしなり。余ハクハトキニ將軍不果  
して退却の才を示せるものなりや否やを疑は  
ざる能はざる云々

△三百人の婦人や児を包有せる七百人の日本人  
西比利亜より放逐され、ブリーメンに着せり。来  
り二十日北獨会社汽船グイールレハツド號にて  
日本へ向け出發せられたるなり。

伯林駐在 日本公使以下その他日本人出で、  
之を逐へ互に其意を交換せり。

△ノীগオエウレミヤの報知る所、擧小ハ曰  
く旅順口の兵站吏員巡查等許可を受けしめて  
其職任を棄てたるは聊か慰むべしと云ふ。他  
の悲觀的報道は皆その根拠なりと。

十月六日

西比利亜より放逐されたる七百名の日本人ブ  
リーメンハーフェンに着せり。同港より日本へ

向々乗船する筈なり

獲艇オレールの號ボールのクワク 艇隊に投合したる  
房ウクエンスクワフトを出産せり

米國大統領ルーズヴェルト氏は欧州各首府の  
意向を探りたる後戦争終局後、至る迄平和會  
議の召集を延期するに決せり

四百九十九名より成る葡萄牙遠征隊モウサニ  
ーゾ國に於て戦闘中キエー子ニ一河を渡り、  
臨みキエーアルバマス土人の襲撃を受け二名

五十四名の戦死者を出せり内五名は將校なり  
外五十名の負傷者あり

現時猶有力の一政治家たるを失はむと  
首相メリーノ氏は言明して曰ふ、米國は亜細  
亞の商業を獨占せんことを欲するものなり米  
國が今回の戦争に於て日本に同情するハ則ち  
之が爲めにして此同情は變て終に日米同盟と  
化成するに至るべしと

キエームバレン氏ルーションに於て演説して曰  
くローズベリイ卿はバルフォア氏をして最

此重要にして且つ從來氏の爲にたる談話中最  
も深く時局に關係せる陳述を爲さしむる而  
してバルフォア氏の演説は此大問題に一時  
期を劃するものなりと余ハ五十年前の自由  
貿易を論ぜしと等しく又五十年前の保護  
貿易を論ぜんとするもの非をバルフォア  
氏は特恵政策問題に對し第二の選挙を行ふ  
を以て必要なりと認むるが如くと云ふ余ハ二  
箇の意思を意味せる第二の全國投票を行ふ  
の必要を解する能はざるハバルフォア氏は  
提案中に於ける唯一の欠点にして此欠点は吾  
人の祖先並に吾人自身不共の豫期せんことを

敢てせざりし帝國の貿易の幻影を吾人の面前  
に齎し来るものなりと

十月七日

南露西亞サラトウにコレラ患者十三名産生し  
五名死亡せしモスコに於ては危機の念増大  
しつゝあり

召還せしむるアルロフは本國參謀本部員に  
任せらるるなり

南露の忌疫

政府の任命

濠洲マンボリーよりロイヤル通信社に達した  
 の報道は、依りて英國巡洋艦若干隻トリス海  
 峽（濠洲とユーロパとの間）にありしに  
 ありとの報告しを以て提督ハ軍艦カドマス及  
 ジバイレールズに右海峡へ赴く可きを命じたり  
 英國軍艦二隻本曜島附近を巡航し、ありと  
 の報告ありたるを以て英國提督ハ二隻の軍艦  
 をトリス海峡に派遣せり

紐育に於て公言せり、處に依りてホルラン  
 ド式啓航艇五隻西方に送るべく恐らく日本

ニ向ルベシトナリシ

大隈伯の演説は著しき批評と惹起し米國に於  
 ては日本の戦争を絶續せしむる力は耗盡せざ  
 しの非むとの感想を生じ公債は一ホント方  
 下落したる

陸軍大臣アーノルド フォースター氏エフ  
 イーランド及物商の饗宴の席上演説を席して曰  
 く余が一年間陸軍省に奉職しての所感は同省  
 の施政の大に重要視を可きものなりし余自身  
 は之に満足し居るを吾人は東方並に南阿に於

けの戦中より教訓を學べり余は徴兵制度：対  
し大に同情を表せしものなるども右の制度は  
り豫期の通り凡ての利益を収め得べしといは信  
せむ先づ軍隊社会として秩序ありしものと  
ぶる可らうを昔人は遊樂保養の爲り陸軍  
を慾望せむ戦へば即ち勝つ可きの陸軍を慾望  
せむなりと

十月八日

在青嶋ロイヤル通信員所報、依小ハ橋逸汽  
船浦塩の封鎖を破つて歸來せし其所報：依小

浦塩斯德の防備

ハ船船ハ絶えむ浦塩：到りフ、あり市中ハ盛  
ニ築壘せし小港内ニハ水雷を敷けりと

カーゾン卿夫人再び危篤ニして痛く憂懼せし  
コ

英國外務大臣ランスタウン卿ハ通信者の問ニ  
答へて曰く西支戦國仲裁を望むの意を言明し  
たりと好く又陛下の政府ニ首尾よく日露両口  
ニ其敵對を止むべきを勧め得べしと思はれと

戦中艦隊モリスクスはハーヴルにありて

印度太守夫人

英國と仲裁

艦隊の歸航途上



米國と日清海

石炭の積入を行ふ居り

華聖頭よりノ報道ニヨルバ日本ハ容易ニ合衆  
國ニシテ起清成る事トを得べし之ニ反シ露國ノ  
暮債計畫ハ失敗ニ終るべし見込なりト

楯邊の禁制

漏小間く所ニヨルバ楯邊ヲゲルマニア造船所  
ニシテは露國ノ房、潜航水雷艇製造中なり又少  
アルカン商會ハ新ニモ軍用器正露國海軍省ニ  
納入しつ、ちりと

十月九日

仙西宣言と  
英國

去る金曜日を以テ發表されたるモロツコに於  
ける具相互の勢圖を劃定せし佛西宣言ハ頗る  
英佛協定を鞏固ニせしむるニシテ河等他國の  
利益を侵犯せしむるニあらず英國ハ之ニ依り  
て益々其シアラールタリの保有を安固ニせし  
を得べし此宣言ニハ楯邊あるは如何の感をも  
抱くを知らず其他ニ於てハ一般の満足を買ふ  
を得べし

ホールクワ  
と楯邊汽船

ハムブルグ アメリカ会社はホールクワ汽  
船の房々ニ種々の地点ニ概畧二十且萬噸の石

炭を輸送する船四十二隻の汽船の雇上、應  
ザリ之が輸送地点の中ニハ、ラースパールマ  
ス、喜望峯、サンダ海峡、ジャガア、スマトラ  
間一帯あり  
同艦隊ハ又七や近々出航のより公言さる  
病院船オレールは葡萄牙沖、於て之を投合せ  
る者なり

十月十日

露國皇帝、皇后、皇太子及びリグアールに着  
せり

クロバトキンに其軍隊に與へたる一般命令に  
於て兵力不充分なりとの故を以て奉天への撤  
退に至る事なりと稱し皇帝は必ず勝利を獲  
んことを決心し相方の増援軍を發遣し居り  
と公言し且つ攻勢運動を取るの時機は今や近  
接し来りりと通告せり

ラースパールマスにある獨逸運炭船の船長  
は曰くハムブルグ、アメリカ会社はホールチ  
ツク艦隊に石炭を供給するの目的を以て四十  
二隻の汽船を雇上げりと云く内十二隻はラー

スパールマースに行く筈なりと

英国甲装巡洋艦オーロラ（五千六百噸）は十月十八日ラーズスパーンマースに向けジブロールターと出發する筈なり

平素事情通を以て知らずる獨逸社会党新聞は公言して曰く潜航艦及び船用機関機軸良團の腐りキーンのスラフチン造船所、於て目下建造中なりと

又紐育へウルドは報じて曰く五隻の潜航艦太平洋海岸より積み出さるなり日本に送り小を

このれ、ぬ、ぬ、と

艦隊はリヴァールに於てホーレンツウ艦隊に對し二日間の検閲を行へり

在聖彼得堡ロウレン通信員の報道、依り小夜軍の前進、就して何等の公報を得難し私電の公言する處、依り小夜軍はベニアプリアを占領し日本軍は同地を去り戦闘は甚だし可らざりしれぬ、ぬ、ぬ、

十月十一日

世人ハ日軍が満洲に續々發向するを異とせむ  
寧ろ平靜ニ之を觀察せし

△クハトキンが全軍ニ下したる告示は彼得堡  
政府の旨を承けたるものと信せらるる同政府は  
如何なる代價と拂ふも勝利を乞ふんことを希  
望せらるる  
クハトキンの説はよれが大山元帥は獅子の  
口中ニ其頭を突き込らるるなりして最早此後  
の成功と望むを得むと

ブールスガセフトに達したる奉天十月九日  
付電報なりとて聖彼得堡より報道せらるる處  
に依れば日本軍の主力は寧ろ遼陽の戦後占  
領したる諸陣地のみならず比其以前占領し居た  
る数箇所の陣地をも棄て、南方に退却中ニ  
て其右翼は最近数日間ニ十哩南方に退却しシ  
カンチアソ、賽馬集、フエンチウナン及び  
其他若干の地點を撤退したると斯く日本軍が  
戦闘を度さずして退却するは即刻遼陽の防備  
の爲めに德を以て利用し得べき兵員を集中せし  
ニ決定したるものと云ふなりと聖彼得堡に於て解  
釈せらるるなりと云ふなりと

クロバトキンは敗戦に對する徳の用心を爲  
し前進線に沿ひて多数の防禦工事を爲しつ、  
ぢり

△ モーニング オストは諦りて曰く クロバト  
キンは得軍の勝利を得たる場合に英國が自ら其  
利益を保護する處より讀み中を保持すべき  
や若しくは自由行動を與ふべきやは一の疑問  
かゝ然れども日本軍の勝利を得たる場合に敵  
國に於て他の援助を受くることぢらん英國  
ハ直に其諸艦隊に令を傳へて豫定計畫の方面  
に出勤せしむ得る如く協同文戦の方畧を定む

置らざるべしうむと

△ 英國の續いて莫大の石炭を買入れつ、ぢりカ  
ーチフより去月十五萬噸ニエーポート其他の  
港にも多量の船積を爲せし恐くは波羅的船  
隊用なるべく近頃再利加の西海岸を島へ莫  
大の高と輸送せし

マルセイユの同盟罷業は落着き洽接は終止せ  
りメサジエリー会社は具各航路を開始せし

ミルナー卿は本年のクリスマスに至り辭職を

の苦なり

聖彼得堡に於て發表せられたる奉天より之電報  
ニ據ルバ日曜日(九日)迄日砲戦あり露軍の右  
翼中央之ニ加ハル日本軍は露軍の壓迫せし  
所となりて各所に退却し居りしと云ふ

十月十二日

ロイヤル聖彼得堡通信員の報ニ據ルバ四十二  
隻の軍艦より成るポールチフク艦隊リポート  
向ケリヴァールと出發せり

煙台、奉天の中點沙河僅の露軍に依りて占領  
されたることは確認され其後の戦闘に於て露  
軍二百名足らざるの死傷者を出せり右に砂塵を  
捲きたる狂風の間、生じたるもの一は露軍  
は之を背に走るを得たり日本軍は之に面  
せり  
寒氣甚かく多数の凍傷者を生ぜり

△ 露軍側の報告に 露兵は渾河を渉り黒木軍と  
砲撃して其陣地を奪はれたるに間もなく援兵来  
りて黒木軍より一取返せり兩軍共に大なる損害

敵軍の前進と兵力  
人心

ては敵軍の前進は漸く遼東に漸く

彼得堡に透電報、曰くクロバトキンの告示は今日漸く一般の知る所となり、諸新聞は右告示中最も顕著なる部分と轉記し、左の論説を掲げしクロバトキンの稱揚し、遠くを敵軍は勝利を占むべしといひ、其結果当日彼得堡市中に於て祈禱祭平時三倍行はれ、公衆は明らからるるクロバトキンの言辭に眩惑せし、其技倆能く日本軍を撃破せしを得べしと信ぜり

政府陸軍部内には敵軍前進の結果良好なりと

敵軍の前進と兵力

とを期せし、憂慮の情顯然なり、又目下クロバトキンの兵ハ遼陽に於けり、時より五萬を増せりと推想せらる

十月十三日

敵騎兵旅團の  
行衛不明

二日間その消息と絶てり、ミスチエニコの騎兵隊に關して甚だしき憂慮、彼得堡に發行はし、この事實はロイター、東京通信員が報した、騎兵二千、砲二門より成る、敵団旅團黒木の側面を攻撃せんとする目的を以て十月九日太子河を渡りたる、日本軍之が退却を遂断し之を

捕獲せんことを期すと云へる。好く吻合せる  
七のなり

汽船スウオンレリ號十月三日セラン（マラツ  
カ）鳩に咄噤しトランスグアールン行清國勞働  
者二千二百名も十日間の食料を附けて同鳩に  
上陸せしめざるべからざるに至り大損害の俤  
こし新嘉坡に達せり

大山は其惣進軍を以てクロバトキンの進軍を  
激へり其主力は煙台の鉄道線より廣瀨なる前  
面に派兵之を存置せり我軍は一見分散せりし

の、如く其集合兵力の相集結をこゝに至らざる  
前大曜日（十一月）に於て先が打撃を加らん  
しことを謀り、此直接運動の外露軍は日本軍右  
翼の廣く分離し居れり二点に對し其攻撃を企  
て居りし

十月十四日

コンノート親王エジンホロに附近に於て自動  
車採用中過つて頭部を負傷せりしを但し  
軽傷とししエジンホロに於て歸着あり二名の  
醫師同地、於て治療、從へりといふ



△ 倫敦 テレリリー、テレカラフ戦時通信員ベニ子  
 フト、バーレー氏は遼陽戦闘の實況を細叙し  
 たる後評論を加へて曰く夜軍は其当時頗るく  
 主要なる防禦陣地を固守して長時日の攻囲を  
 凌ぎ以て一切日本軍の攻畧計畫を失敗に歸せ  
 しむべかりし也 斯くもたうんはハ大山將軍  
 の軍を以て死物狂の正面攻撃を避りて西方  
 より夜軍の最強力なる地点に向りしをたふな  
 るべし 云々

十月十五日

前電コニノート公の遭難ハ全く自動車の衝突  
 ニ是くもカミして公ハ車外ニ投げ出さんたり  
 當時の陪東者はモリシー少佐と外一名の文官  
 たり公は頭骨と左耳とニ負傷せしむるをい  
 余ニ係はるほどつとにはあるまじき見込

ステフセン十月一日の報告、曰く夜軍は一た  
 び日本軍の手ニ落たる信號丘を回復せり日本  
 軍は目下新造の砲台より頻に要塞の内部を砲  
 撃し砲撃は日一日と激甚を加ふと

敵大敗を自認

露國新聞ハスハ公言シテ曰ク昨日、於テ露軍ノ損害ハ一萬五千ニシテ廿千オク將軍ハ戦死セリト

仙國新聞の悲観

△仙國新聞紙ハ悲観的ニシテ今回ノ災厄ハ其極度ニ達シタリト宣言シ露軍ハ總退却を行ヒつツアリ大砲ノ失ハ小タルモ百十二門、全滅ニ歸シタル隊隊若干アリト曰ハリ

船隊召還せらる

△ホーレンホルム艦隊ハ召還セラルル風説アリ

質昂軍と加奈陀

△加奈陀ハキエームバレン氏ノ質昂政策ヲ賛セリ熱切ナル宣言ヲ爲セリ

米國露國と怒

△華聖頓政府ハ浦塩ノ露人ヲ長崎磯泊ル米國巡洋艦ニシテ十数隻ニ宛テラハタルカス號内ノ郵便行囊ヲ開封セリト憤ル

國王の夢去

△サキソニー王ジョージ殿下今朝サキソニーのピルニソツツに於テ夢見ザリ

露都の錯愕

在聖彼得堡ロイラン通信員ノ所報ニ曰ク滿洲ノ報通ハ深甚ナル憂鬱ヲ惹起シ之ヲ彼の

クロバトキンの宣言に依りて興奮せられたる得  
意と比較せしむる可き相違なり  
露軍の損害は約八千なる可しと察せらるる  
サキソニー王崩御せし

△ 聖彼得堡、於て畏怖憂懼の念一般、流行す

△ クロバトキン將軍は今回こそ露國の面目と振  
起し且つ漸く熾んかんとする民心不満足の  
風潮を鎮制する目的を以て運動を起したるも  
つと信せらる

△ タイムス新聞は論じて曰く 露國政府はクロ  
バトキン將軍及び其の麾下軍隊を以て日本軍  
と相搏ちて戦ふ、手然らざらんば前敗を回復す  
るに二つ、一つの博奕を試み而して見事、損  
失せしむるなりと

大砲十六門を介捕らんとするの報道聖彼得堡  
に於て公に承認せらる

露國の従軍記者は皆今回の会戦を以て遼陽の  
戦争より一層殊死的なりしといふに一

過 英國親王負傷記

致其其報道云 兩軍は全く生命を顧みず陣地は  
占領せしむる奪還せしむる長戦は六回乃至八  
回に及びたるものあり毎日の損害非常の上れ  
り兩軍は屢々手手相搏ちて接戦し双方より抛  
擲榴彈を投ず其結果怖るべき死傷を出し砲撃  
は毎夜連續したりと

コンノート親王の負傷は經過良好なり

十月十六日

聖彼得堡にありし仏國の諸通信員はクハルトキ

情 露軍大敗と其由

この敗北を以て眞実疑ふ可からざる慘害なり  
と報道せり

諸方面より出でたる説によればバクニルトキン  
の前進は民衆不平の風潮を農夫の従軍忌避  
を防止せしむる勝利を制す可き絶體絶命の必  
要ありしに因りて云ふ

大山元帥は露軍の損害を三萬と算せり  
露軍は殄滅的敗北を受けて到る處退却中なり

十月十七日

二十八隻の英國軍艦遠東への進上ボルニホル

進 本 艦隊

ム（獨逸、瑞典の海峡にある一嶋）と通過せ

奉天十月十六日度ロイヤル通信員の報に曰く  
昨日小康なるを得たりし本日奉天の西南十里  
に於て戦闘再始さるるなりケロバトキン島の邊に  
脱走せしことを得るは今既に確實なる全軍に  
於て三萬の損害を出せりと

又テレカラム新聞に達したる奉天電報に曰く  
第十七及び第六の兩軍團十月十四日最も激戦  
の衝に當り沙河を渡りて且退却と行ふ前六度  
日本の來攻を撃退し三度日本の砲兵を沈黙せ

しめたりと

露軍は尚ほ激戦中なり然れども各種の報に據  
ルバ日本の勝利の決定的なりしことと見更ニ明  
白あるに至り日本軍は露軍を撃破し得たり  
のみならず且ち各方向に之を追撃し居たり

△ホーレンツワグ艦隊はフエーマルン海峡（獨逸  
下抹間）と通過しランゲランド海峡（下抹間  
嶋嶼間）に碇泊して同地に待受し居たり三隻  
の艦西班牙艦より下抹海面に於て石炭の積入  
を初めたり

△ 聖彼得堡よりノ報ニ據ルハ、殊ニ南部夜西ニ於テ政府反対ノ輿論沸起シ来ルヲ示スニ足ルノアリ、革命的ノ会同ハ憚ルことナク其檄文ヲ配付シ居リ到ル處ニ人氣甚だしく陰鬱なりと云ふ

ルス新聞ノ論心ノ所ニ據ルハ曰ク二萬三千ノ負傷兵奉天ニ達セリ南は多数ノ銃巻ニありしノアリラビンスキリ將軍重傷を負ヒテ危篤なりと

政務増進隊ニ從軍シタルロウレン通信員は十

月十五日と以テ報リテ曰ク其劇烈なることニ於テ遼陽ヲ凌駕セリ六日間ノ戦闘ハ結局露軍ニ連續モル退却ヲ行ハシむることナリ日本軍は目下露軍ノ中心ニ其楔ヲ打ち込ミ居ルノ猛烈ナル砲戦ハ豪雨ヲ起シ且ツ霰ヲ交ヘシむるニ至リ戰場一帯沼澤トナリ又進むべからば西軍共ニ此中ニ悩ミ居ルナリ

△ 今回の會戦ニ於テ日本軍ノ勝利ハ一般ニ其價値ノ大ナルことを識認セラルル而シテ日本軍が軍ニ防禦ニ止むことニお如きとなくして全線盡く攻勢ヲ取りしは從來未ダ多く其実績ト

見む。戦法ニシテ軍事批評家ノ驚嘆セし所ナ  
リ  
殺傷の夥しき勢ハ世界の道義心を刺戟シ之ガ  
肩ニ調停の心を促スニ至ラんと云々也一般の  
認むる所也日本ニシテ敗北セバ其國命を危ク  
スベキ恐あるを以テ日本は此を爲ルニ如何な  
る莫大の犠牲を供せんも無理のなき所なりと  
云々良國ニ至リては全然官僚の野心の爲ニ戦  
へるもの日本とは日を同じくして語るべから  
ずとなんニ在リ

十月十八日

日本は南蘇格蘭の諸製造所ニ巨額の軍隊を販  
を注文し居ル

オースチック艦隊は昨日ケレト海峡（前號  
ニ見えたランゲランド海峡ニ接シ其北方ニ  
當ル海峡の名称）ニ於テ三隻の西班牙汽船  
より石炭の積入を行ヘリ

サカロフ報告ニ曰ク昨日血戦の後俄軍は  
沙河南岸の丘陵より日本軍と駆逐セしことを  
得テ十二門の砲を鹵獲セリと

日本防衛夜注文

オースチック艦隊  
進航

僅に諍を得たり

アスケユリ下ス内親王難産ニシ死去セリ

奥軍附イケル通信員ハ十五日付通信ニ曰ク  
露軍ハ渾河ニ於テ一城抗セ試みんとセリ計  
畫ニシテ日本軍ハ出来得ベキ大々速ニ奉天ニ  
強進せんとなふものなりと信セリ

(十月十六日附サハロフ参謀長報告)

十月十五日正午日本軍ハ秋右翼ニ對シ最も猛  
烈なる行動を開始セリ秋軍ハ林盛堡ニ前進シ  
之を占領せんことを試みたり其目的を達

セガリヨ同日中秋軍ハ中央隊ニ砲撃を受ケ  
カカミニシ概シ比較的靜穩ニ経過シ秋損  
害又多大ならむと云ふ

日本軍ハ昨夜ナンチンツの東北ウーデツド  
ヒル(森林丘)と稱スル高地ニ於テ我ニ聯隊  
ヲ占據セシ中央隊地ニ攻撃シ我兵ハ同高地ニ  
近シ沙河の後方ニ退却スルヲ止むを得ず  
至リ其後我兵ハ隊備隊ヲ増援を受ケ準備砲  
撃を行ハル後同高地ニ突撃シ激烈なる格戦  
の後之を奪還シ同高地より遙ニ遠方ヲ飛敵ヲ  
追撃シ秋右翼ニ於テ砲戦激烈と極メ午後敵  
ハ縦射を以テ我を砲撃セリ



(十月十七日附廿八日付各隊長報告)  
昨夜ハ靜穩なりし昨日申我ハ孤立せる丘林ニ  
突撃を行へり敵ハ同丘上ノ陣地ニ大急ニ堡壘  
ニ設け之を占領しあり敵ノ兵力ハ正確ニ分明  
ならざりし其戦鬪ノ猛烈なるを以て之を見  
ルハ其兵力多大なりしと察せり我軍ハ最も  
有効なる準備砲撃を行ひて後敵陣地ニ突貫  
し之を占領し二キロメートルノ距離ニ敵を  
追撃したり戦鬪は朝まで繼續せり日本兵は極  
りて頑強ニ其陣地ニ防禦し我と白兵戦ニ交  
へ其多数は刀傷を蒙りて塹壕内ニ我死せり我

は野砲十一門連射砲一門を鹵獲せり我の損害  
は甚評

只今即ち十七日午前八時ニ我陣地の全隊ニ  
亘りて不秩序なる砲撃行はれし、あり我兵ハ  
甚だ疲弊せし元氣ハ旺盛なり

十月十九日

外務省ハホルト汽船会社ニ対し鉄道材料並ニ  
生棉は出荷者ニ於て豫め危険を承認せし船積  
せらる可しと通告したり

ロイヤル社の控用をふ屬て、依れん英國のチ  
ンビー平原台嶺は七十五年に亘り此間年々十  
萬磅の割合を以て償金の支払はし可きこと  
略は間違ひ無う可く且つ疎聞をふ所は依れ  
に駐藏清国大臣は清国主権を認りらるゝと不  
十分なりと稱し、最後の瞬間に至るまで條約  
の調印を拒みたるが之に對し主権とは亦責任  
を含む者なりと加ふるに英國の兵徒は百萬磅  
を費せしむるに非ずと答へらるゝと云へりと

十月十八日

△ アレキシーフとクロバトキンは目下奉天に於  
て会高申なりと云ふ説あり

△ ホール4ツの艦隊は本日ケレートとベルトを通  
過中にして石炭運搬の爲め、雇上げられたる  
運炭船五十隻は諸所の協定会合地を占め、而し  
美米の意見は今回のホール4ツの艦隊の發航  
を以て全然大規模の狂言に過ぎざらんと爲せり

△ 更に百十五名の遊難日本人ブレインールハーブ  
エーンに乘船し總計にして七百名明日同地を出帆  
せし若かり彼等は日本の代表者なり凡この接

護を受けたり

△ 夜國ハ巴里ニ旅行し更に公債募集の談判を開始せんとか

十月十九日

ウエールス炭五十萬噸以上、人造燃料若干夜國の勘定を以し十、十一、十二月中地中海西阿弗利加、希望峯に輸送せらる可し此注文は重しニ漢堡西米利加汽船会社の手を経て来れるものにして十二の商店に分附せしむるべし

夜國の石炭注文

△ ワフに於ける石炭商店は凡そ之に代表せらる

△ 去九十西月中旬ハルケワク船隊用として夜國に賣込を了すウエルシエ炭は約五十萬噸あり

△ 波羅的船隊は今日フアワケベルゲ一丁掛べルト海峡ランゲラント島(南端)沖を北方に駛行せり

其後の波羅的船隊

△ 米國が日露間を仲裁をべしとの風説は無根なり同國の輿論は依然日本勳員を以て其中立は甚だ嚴正なり

米國の仲裁

△ルリター代表者江林駐英公使ニ面会せしに公使は媾和の時機を判定せしは日本ニちうびして最近の存を心きしものなりを期作を通りて戦争を慮れり別ニ妨ぐる者なり次の要点は鉄峯の占領にして其上は哈爾濱占領を阻碍せし者なりとあり

十月二十日

獨逸赤十字社は吾國赤十字社より請示ありたるを以ていんらんワックに病院を建設し且つ病院

列車を整備せし可く同時ニ日本ニ対しても同様の援助を申出せしと公言あり  
ポーランドワック艦隊は今グレイトベントを通過中なり

英領印度事務官<sup>著</sup>は英領チエムバの占領の七十五年間ニ及べしとめ説を承認せり  
フアリジョンが十月十七日度ロイヤル通信員<sup>員</sup>の報する所ニ據んば西藏遠征隊最後縦隊司令<sup>員</sup>部と共に同地ニ雪籠りたるに至りて積雪道路を没して行くべしと既に二名の凍死者と出

しなると云ふ

十月二十一日

英藏性約後報

ロイヤル・ル・解釋を了す所ニテハハ 西藏は一年十  
萬ル・ロ・ロ・つ・の割合を以て軍費の賠償ニ應  
むることと承諾せし 此軍費全額を賠償さす  
ニ至るまで千二・ロ・ロ・平復の占領は継続さす  
べきことと條件に依り指示さるる所なりと云  
ふ昨日之の取柄を了るは即ち本國政府との  
協定を承認せむるものなりといふことあり尚ほ  
ギヤンチエに於ける英國の代表者はラフサに

其駐在を要求するの件ニ関し同地ニ赴くの權  
利を有するものと亦ラフサに於て協定せんを了  
なり

波羅的艦隊北海  
進航

△ ボールンチフク艦隊全部昨夜北海ニ進航し其水  
先案内を放す

浦塩艦隊の修繕

△ 聖彼得堡よりハ報ニよれば浦塩斯德の巡洋艦  
は其修繕を完了し試運轉を了頗る好結果なり  
しと云ふ

大正の責任報告

△ エコー ド パリは報トて曰く先頃の宣言書

を作したるものは即ちアヒキシーフなりク口  
ハトキンは其成行につきし徒に之が故障を最  
帝に申出でたるも棄却されたる

△日本四合利付公債は七十三磅、五合新公債は  
八十四磅半、同前公債は八十六磅半、六分公  
債は九十四磅半にして年堅し

△ノウオエウシは露國不スニケ群島中の  
一島と和蘭政府と譲り受け同地は波羅的艇  
隊用の軍港を設け得べき見込ありことと唱道  
せし

△仙國社会党首領ジョーリス氏は平和回復を為  
す國際的示威運動を發起せしむるとり説を主張  
せし

陸軍省令を以て歩兵の服役期限は今後凡て現  
役九年未満三年に改めらる

十月二十二日

英國皇帝は西藏使節及び其軍隊の多大なる勞  
苦と卓越なる功績とを承認し之に交附せしむ

波羅的海の艦隊北海  
艦隊(別報)

西藏遠征隊引上

敵軍大増進の公表

き特別賞牌の調製を命ずる

おしんちつろ艦隊北海に進航せし

西藏遠征隊全部雪中苦難甚むるも行進を断し  
逐に千エムビに達するを得たり多数の凍傷に  
罹り又雪の爲に先明くを好むのあり

聖彼得堡に於し公表せられたる處、係小ハ沙  
河の会戦に於ける敵軍の負傷者は五萬五千八  
百六十八名に及り戦死者ハ一萬二千人に達す  
と

十月二十三日

聖彼得堡より報道に、小ハ從來更に手を着  
けざりし百二十軍区の豫備兵と直に現彼に召  
集するの勅令發布せしむるなりといふ

聖彼得堡の高等捕獲審核所はアランドノ號に  
對する浦塩捕獲審核所の判決を破棄し同船を  
直に解放す可き旨命ずるなり

ボーンチフク艦隊は北海に於て英國ハル港の

敵軍大増進の公表

捕獲艦を解放す

波羅的海の艦隊北海

露國軍之動員  
(前報)

実綱漢軍船隊を砲撃し其二隻を沈没せしむ多  
数の人を殺傷せし

△ 露國ハウオムワ、ウイムナ、キーエフ及  
スコーカニ於ける百二十軍団の豫備兵を召集  
中し

捕獲船の解放(前報)

△ 露國海軍省はアラントン號事件ニ對する浦塩  
捕獲審判所の判決を破棄し直ニ同船を解放す  
可きと示さる

貯炭所買入論

△ 介ウオエ、ウレ、ミヤハ露國政府ニ對しホ

ルンチツク艦隊の使用ニ供する爲り和蘭より  
印度洋ニ於て貯炭所を購入を可しと勸告せり

露國艦隊の進航

△ ポーレンチツク艦隊ハ北海を通過中なり

十月二十四日

ポーレンチツク艦隊ハ昨日午後西方ニ向いド  
カアを通過し

露國艦隊の動向

風説ニ依りハ同艦隊は北海ニ於て二隻のハル  
港澳船を乗り沈り十八名の乗夫を溺死せし  
たりといふ



仏國議會ハ政府の采政を討論し内閣議長  
コムベール氏ハ羅馬法王座を公々然として國際  
關係を無視しを以て教會と國家との分離  
避く可うらざるに至りて宣言し議會ハ二百  
三十七票ニ對して三百二十五票を以て政府信  
任案を可決せり

最良者十字社の請求に依り伊太利人の満洲に  
着護隊を送りつゝ、

米國大統領ルーズベルト氏ハ列國會議召集の

日限を定むるため各國に勸誘書を送うんとす

ハハハ々々々々艦隊が北海に於し英國海軍艦隊を攻  
撃したる事ハ大に英人の憤激を惹起し皆之を  
以て海賊同様の無法の仕打となす

新聞及び公衆は本件につき最良者(イタリヤ)の陳  
謝と賠償を得べきことを主張し今回の事ハ最  
良者艦隊が英國に挑戦するが爲り左に於ては艦  
隊不在を以て起りしものなりと認め居  
り而して新聞紙の中にも若し英国外務省に  
して本件につき必要の手段を執り其要領を得  
る能はざるに於ては海軍に直に適當の行動を

出でざる可らむと論ぜしりあり

△ 波羅的艦隊ハ航海中ニ日本ノ暗撃ニ遭せん  
事ト非常ニ恐ル居たり、似たり、露國新聞紙ハ  
日本が澳船或ハ同様の船ニ水雷を産射せし  
トと夢想し居たり

然レ：遺難澳船の言ニ「ハハ艦隊ハ十分近寄  
リテ探海艦を照し漁船の漁業ニ従事せしと確  
ニ認り居り」加之漁船ハ各國公通の漁船の  
燈明と獨り居りといつ  
スタンゲード新聞ハ波羅的艦隊ハ國際間の厄  
介物ナルハ直ニ召還せしむべきと要求せり

△ バルチック艦隊ハ丁抹海峡を通過せし係ラン  
ケラント水道及ケアルベック灣の兩所ニ碇泊  
したるが其係船も丁抹領海内ニ於て其引連  
れたる石炭船より石炭を積み込みたり

△ 聖彼得堡ニ於てハ未だ露國提督より報告ニ  
據せ飛送、其凶暴の事實を輕視せんとすこと  
のみ力ヲ居たり  
露國艦隊ハ困難者ノ救助を謀りしとなくして  
進航し去り  
英國之通下ニ到る處ニ憤慨の念興起せり

政府ハ之ニ満足と共ニハシムルニ於テ各應ナキ  
 要求と昨日所成得達ニ提出シタリ  
 ベンケンドリフ伯日本外務大臣ラムズドン  
 フ御と会见スル事ナリ此席ニ於テ露國の回答  
 必ス共ニラフ事ニナリトハ期待ス  
 ジブロールターの海峡艦隊司令官ベリスフォ  
 ード提督ニ対シテ日記ニ命令矣セル事ナリ  
 ホールチワク艦隊ノ戦闘艦七隻、甲装巡洋艦  
 二隻、保護巡洋艦五隻及び七隻の駆逐艦より  
 成リ既にビスケイ海峡を通過シタリト信セラル

十月二十九日

ベンケンドリフ泊揚遠より倫敦ニ歸着セリ餘  
 リニ多数ナリガドノ具備ニ居合ハセラルモ  
 〆停車場ニ於テ之ニ口笛を吹キテ嘲弄の意を  
 表サリ一少年の如クは伯の馬車ニ対シ其車窓  
 を破壊セんと試ミたり一般の激怒ハ尚且外  
 國新聞紙ニ於テモ之を窺フことを得揚遠の新  
 聞紙と馬ノ亦之ニ調子ヲ合セホールチワク艦  
 隊の先鋒を以テ其危難を豫表スル事ナリト  
 一若ク首尾よく日本海面ニ達スルことあり  
 低智の舟ヲ如ク海底ニ葬ラリト云フベシ  
 と云セリ

總理大臣ハルフォード氏ハハル市長より強硬  
の態度ニ出むられたる事ハ申告ニ據り之ニ答  
へて充分政府の行動ニ信頼し可なりと云へ  
り  
国内の激昂頗る盛なり

澳船隊ハ昨日ハルに帰着し其報告先所  
ニ據ルハバル午ツク船隊ハ日曜日(二十三日)  
の夜北海ニ於て右ノ澳船隊を襲撃し其二隻を  
沈没せしめ二人の死者と多数の負傷者を生ぜ  
しめたりハニ於けり五十隻の釣澳船の持主  
等を代表せる請願人ハ美国外務省及び海軍省

に出頭してバル午ツク船隊襲撃の模様を具申  
したり其言ニ據ルハバル午ツク船隊ハ第一の  
部分ハ金曜日(二十一日)の夜半澳業地を通  
過したる可残餘の船隊ハ日曜日の夜稍遅く  
探海燈を釣澳船の方向ニ回轉せしめたる後砲  
火を開始したり釣澳船クレーン頭ハ沈没し其  
船頭及び運轉方の頭部を失はたる屍体ハハル  
ト持来りたり池の船員ハ目下出座船の中ニ  
在り釣澳船ハバル及ビマクノ號ハ長らく  
損傷してハルに帰着したり其後若ハ船隊ニ  
十六の彈孔を有せり又後報ニ據ルハ池の澳船  
ニ一ハ船員全部を喪せたり又一ハ沈没したる也

の七之妙不可言

各新聞紙に此の暴行を以て恐慌を原けり同業  
となせり然れども皆一様、政府を強硬の手  
段を取り直に露国政府に對して謝罪と損害賠  
償とを事經負の處罰とを要求せんことを主張  
し且つ此事件の最重大なる點はバルチック  
艦隊が沈没せし通船の乗船員を救助せんこと  
せむ全速力をこめて疾駆し去りたることを即ち之を  
りといひ

此事件は其夜半ハルに於て傳へらるるまで美  
国海岸の何れに於て報通せられざりし南極ハル  
に於て傳へらるる所、これに其夜半釣漁船の

井川の號、亦全船員を乗せたるまで沈没した  
り目下近船は二十九人の負傷者を収容したる  
よし南極海上にあり 踪跡不明の通船も亦之を  
知らず一説にこれに於て時出漁し居たる釣漁  
船の數は百五十隻の上りたりといふ

夜半の電報は國人としてエドワード皇帝に電報  
して遺難者の遺族に對し甚深の陳謝と同情の  
意を表す

△ 華盛頓の報に云んば英國の報償の行はる  
るに至りしに於ておりの千ツク艦隊の航海を停止

セービラの二旅し米國他の列國に共同をうやむやを照會するなりと云ふ  
米國の右に對して賛成を表すなりとの報あり

△ 西班牙はホールルチツク艦隊に石炭を他の供給を禁止するなりとの報あり

△ 獨逸汽船ウイッレハツド號は八百三十の避難民を載してブレノーバーフエンを出發せり  
小田氏之に送別を辭を共に樂隊九君ヶ代を奏せり

△ 諸新聞は英國の謝罪と賠償をみるに満足なり  
艦隊が不慮なる海軍將校を相當の罰に處し  
ハルチツク艦隊の航海停止を要求せざるべからばと

△ 英國大使ハントンはデイリーニエー  
紙上を借りて英國汽船の砲撃に全く意外の災難なりと云ふ  
英國人民に對し其の毒に世に及ぼす言を述べたり

△ 彼得堡に於て波羅的海艦隊暴行事件に關し新聞の檢閲非常な嚴重なる爲に今朝の新聞は何等

英大使と英国外相と  
責む

記載せし所なく夕刊の新報に僅に英艦隊の通  
船と衝突し之を沈めたりと記載せしのみ

△ 英都駐劄英国外相は一個の意見をして以て英国外  
相ラムスドール伯に向ひ澳艦砲撃事件の説明  
を求めしに外相は自ら其事を倫敦電報に上  
りて知りしのみ海軍司令官は此件に固く未だ  
何等の報告に接せざると答へたり

十月二十六日

英艦隊と英  
帝の陳謝

外務大臣ラムスドール卿ハ遊難者、対する正  
當の陳謝と賠償とを要求し且つ責任を帯びて  
兇行者の審問を行ひ之を處罪せんことを要求  
したり

英帝ハ英皇皇帝ハ電報を奉りて陳謝の意を言  
明せり

英艦隊暴事件  
陳謝

△ 英海軍省ハ公然宣言して曰く地中海、海峡  
及び本國艦隊、対し互に相扶け相共、皇中を  
可しと、協備的命令發せしむるなりと斯くて其

集中せりし心は軍艦は總計戦闘艦二十八隻巡  
洋艦十八隻及心多数の砲艦駆逐艦あり  
ホーレル47の艦隊司令官ロジエストウエンス  
キーは日々報告を有る可しとの命令を受け居  
れるに拘けらる其ホーレル47と出発したる  
以来聖彼得堡政府は同長官より依然何等の報  
告も接せざり  
概して今ニワシエ フライツング曰く露國は  
孤立なる遷延は危険なり若し露國に直に  
賠償を行ひ且つ將來に對する保証を共の手に  
非ざらんば枉しき重大なる性質を有る戦争勃  
発せしむる恐ありと

聖彼得堡政府

夜帝は十月二十三日勅諭を度しクロバトキン  
を以て枉吏に於ける軍隊の最高指揮官に任じ  
アレキシエフに依然總督の任を授けたり

無責任の通譯

在所彼得堡ロイヤル通信員が所報に依れば露  
國海軍者はホーレル47の艦隊に属するものや  
を知らず陸軍艦隊と通信を有るの余なりと言  
へりといふ

美露同手懸重文

ハルキツク艦隊の暴行に對し露國政府は今も  
至る迄美國政府の要求條件を應ずるに各あり



亦多事態急、重大となりんとす。我皇陛下が  
美国皇帝に致し、親愛は未だ以て礼儀を尽せ  
るものと認めらるれば、我皇陛下が其国内の新  
紙に掲げられたる、辯解を辞し、亦以て美人を満  
足せしむるに足らざり  
美人は此際、急りて慎重の態度を取り、我皇陛下が  
我皇陛下の應答未だ、泥せしむる亦多事態急、激  
昂の色を示せし、若く我皇陛下に、速に十分の満  
足與へざれば、美国は直に自國艦隊の力を以  
りて我皇陛下の行進を妨げしむべしと主張せし  
ものあり

我皇陛下の言

△ 外務大臣ランスタウン卿と我皇陛下心ケン  
ドルフ伯は、昨二十五日長時間會見あり、ケン  
ドルフ伯は、略代表者に語り、曰く、昨日香  
曲の電報、我皇陛下に達せし、我皇陛下が本件は、多分平  
穩に決句せし、目下の處、この説明は、な、純  
きも、本件は、性直に思ふべき、過失は、甚く、その、  
如く、我皇陛下は、一層親密なり、と、是、本件  
の發生、な、是、甚だ遺憾なり、と

十月二十七日

おしん千ッ、艦隊に属する戦闘艦四隻、西班牙

我皇陛下の言

のウイゴーに到着した。他も續いて来る。英國駐劄長國大使ペンケンドルは他は英國外務大臣ランスノウン卿に對し最深の痛恨を以て露痛的回答を手段し、十分の賠償は公報の到着するに及びて居る。英國に於ては強硬なる感情行々、苟も兎行者の所罰と約せざる回答は不満足なりと居り、同時、海軍省は活氣を呈し、諸船渠は作量繁忙を極む。

アレキシーフは近々彼得堡に歸還を可しと

同地、於て豫期せらる。

ホーランドの艦隊西班牙のウイゴーに到着し、西班に之に對し石炭及糧食の供給を拒絶し、然るに司令長官マジエスノウエンは若干隻の軍艦損傷せりと確言し、タンビール港に赴くに足る可き石炭を要求した。

聖彼得堡政府は將校の所罰及び將來の關係を求めたる英國の要求に對し、未だ答ふる所なし。英國の要求に應せざらんことをの傾向

しりとの説あり

ジョアコーンに於ける美国艦隊はホーランド  
ワグ艦隊を追蹙るる多し大西洋に赴けり  
美国の要求を強請るる準備は凡て整へり  
今回の凌辱に對する説明は更に東より海を

△ クロバトキンは陸軍總指揮官に任ぜられ  
而してアヒキシーフは愛彼得堡に帰還を可  
と宣言せらる

△ 夜國よりハ未だ回答無く而して其制限時は  
今夜を以て満り也

了溜督帰還也

夜國の頑迷不靈  
美に及同僚功迫

内閣會議は明日正午十二時を以て開催せらる  
聖彼得堡の所報に「ハハ」口口エストウエンス  
キへの報告到着しなり而して夜艦は漁船内  
日本水雷艇二隻を明に認めたるを以て舷側の  
大砲と一齊に発射せらるなりと宣言せり  
此地に此説明を嗤笑し之を以て怪毒なる誤認  
なりと看せり

夜國ハ美国の要求に從ふ有罪將校を所罰し若  
しくは將來に對する保證を與ふるを拒絶を可  
しと豫期せらるる故に形勢は危急にして本日長  
時間、亘らる大匠會議ありなり

△ モーニングポスト曰く、英國は、カーチスル  
通過に對する制限を去らざらんとして列強  
と誘導せり。

テ、リリーメールは曰く、英國政府は昨日を以て  
英國の不法士官を罰し、今後再び斯る行爲を起  
さざる保護を得ん事と要求し、英國若し之に應  
せざんは、英國海峡艦隊を以て、カーチスル艦隊  
の返航を要求せしむべく命令せんとす。と  
記載せり。

○ 海軍大臣セルボルン伯は昨夜ポーツマスに  
急行せり。

カーチスル艦隊に屬す。戰艦、無敵艦、インペラト  
ル、アレキサンダー、及び、強に乘り、阻むる、將校、ケレ  
テ、リ、公、ウ、イ、ゴ、に、於て、説明し、て、曰く、  
艦隊に先ち航進し、つ、ち、り、たる、運、送、艦、若、干、隻  
は、北、海、に、於て、突、然、八、隻、の、水、雷、艦、に、取、圍、ま、れ、た  
る、を、以て、戰、闘、艦、隊、の、助、を、呼、び、り、是、に、於て、戰、闘  
艦、隊、は、前、進、し、右、の、水、雷、艦、に、對し、退、去、せ、ら、る、可、き  
に、く、日、國、籍、を、陳、述、せ、可、し、と、信、號、し、た、る、に、水、雷  
艦、は、之、を、拒、絶、し、戰、闘、艦、隊、に、前、進、し、來、り、砲、声、聞、え  
た、る、是、を、以て、提、督、は、戰、闘、艦、隊、形、を、作、り、て、應、砲、し、  
後、航、海、を、絶、續、し、た、る、蓋、し、提、督、は、日、本、が、英、國、に、

於て水雷艇若干隻を購入したりと云ふ事  
を以て右の水雷艇を以て日本の水雷  
艇なる可きと恐れたるなりと

十月二十八日

美國の輿論は熱病的高度に達せり

内閣は昨日召集せられたり

各党派は充分の報償を主張する事、就て絶對  
に相一致し、バンナマン氏並にロズベリ  
卿は公然此運動を可しと宣言したる

美國戦艦クルーゼン(一萬五千噸)並に駆逐

艦九隻モロータを抜錨したる、目的地不明なり

目下マイノメにある地中海艦隊中の一分隊ハ  
集合をべしとの緊急命令を受けたり(西班牙  
牙)に在る一分隊ハ亦西方に航進をべしとの  
緊急命令を受けたり

倫敦の官邸に於ける見解はモロータ艦隊  
を外航の或一地点に達するに先ち命令的に  
て且つ満足なる着着按排せらる可しといふに  
なり

美國ハ漁船攻撃の件、固くガイギーに於て其  
調査を命ずる

おーん千ソク艦隊は當分同港に留まり若く  
 多分は二十日間碇泊せしむるべし  
 同艦の危機は既に去るバルフォア氏は今夕  
 サムプトンに於て演説し詰局國際調査に  
 附せらるる事となるべしと云ひ其平和に度着  
 るべきを信むと云へり  
 聖彼得堡より報に據れば二通の公電口じエ  
 ストウエンスキー提督より既に同地に達せり  
 其第一信は二隻の水雷艦燈火を掲げしりて艦  
 隊の重なる軍艦に對し攻撃し来りたるを以  
 て艦隊は探海燈を照らし之に發砲せり是に

至りて漁船に類似せし汽船若干隻の存在發  
 見されし艦隊は水雷艦の其所在を没せると同時  
 に成るべく之を助け人ごとを謀らんと云ふ又  
 艦隊は一隻の水雷艦を伴はせり一と稱し一  
 隻の異形なる水雷艦は直に沈没し他の一隻ハ  
 翌朝に至る迄十汽船の附近に損害を負ひた  
 るもの存留し居たり艦隊の汽船に助力を共へ  
 かりしは數回迄も頑固に各艦の艦列を横断せ  
 る其状之が連累するやの疑ありたるを以て今  
 りと云へり又第二信は艦隊は數百隻の漁船に  
 遭遇したるも其外國水雷艦を伴は居たる時の  
 外は常に之を萬般の礼讓を加へたりと云ふ提

英露同形船  
功迫

哲王其遺難者に哀悼の意と言明せし其遺難  
の事情たるや昂も辨陰なる平時に於し如河を  
の軍艦たりとも是れ以外の處置を爲し能はぶ  
り結果に出でたるものなりと云へり

△ 露國政府の四谷未だ到達せざるに事態は益々  
重大なるんとしつゝ、ありたるといふ四谷到達して  
も若し驚く可き露國艦隊司令官の辨明として  
改めらるゝとなくんば此上の交渉は一切無用  
となるべし

美國海軍省は今や盛に愛に應むべき一切の手  
配を整へ居るべし

十月二十九日

美國内閣は至急に其調査会を催さべしと想像  
さる多分ケサゴリに之を用くなすべし戦争の  
危険は斯の如くにし避けらるゝを得るべし

露國ハ充分なる陳謝を行ふ且つ之を賠償を約  
束せし

双方の政府はおもひつゝ、艦隊の責任に關し  
る問題を國際裁判所に提起し海牙裁判官の下  
に之を審理せしむるに同意せし但し仲裁に附

英露同形船

英露同形船一段落

先ずにあらば右審問は即時開廷の都合にして  
審問迄の處置團は有罪艦隊のガイゾーに抑留  
さるべきを約し其上にして責任者ハ之を處罰せ  
るに同意し又珍事の再びさるることなきを謀  
る者なり  
この一段落につきて美国新聞紙の説は一様を  
らむモリーニングがオストの如きは審問を以て  
無駄なりとし事實は明白なりと認む  
皇后アレキサンドラ陛下は次回の閣議を催さ  
しむる爲りハハフォーア氏を召還せし  
林公使は会見者に対して日本水雷艦存在の説  
を一笑に附せし

連船供の一段落  
(別報)

バルフォーア氏ハ其サハムトンに於ける演説  
中ニ於て稱して曰く本件ハ國際審理に附せら  
るゝこと、なれど吾國はハハフォーア氏に抑留し置  
事に關係せる其一部をガイゾーに抑留し置  
んとし之を命と發せし事ニ責任ある將校は絶  
東に進發せむ之に審問を受けしもの且つ之に相  
當の刑罰を加へらるべし吾國は類事の再演を  
防止せし爲り訓令を發せし者なりと

秋田團の表登

多岐の新聞紙は美英の協定を歓迎して表登の  
平和を全ふしたるものとなす



同盟国海軍協  
活動

但しモリーニングポスト及びスタンカードの兩  
底は痛く之を非難せず就中スタンカードは此  
協定を以て不十分にして且つ無効力のものと  
し英國の威嚴を名譽をば辱め、傷けらるゝ  
と論じ

△ 英國海軍の活動は猶ほ繼續す

△ 4月アラタル海峡艦隊は二十七日準備成り本  
日出港スベールヒヤメンビヨウロツク(地名)攻  
撃演習をなすとの口実なり  
ポーランドにフエーメに在りし地中海艦隊は4

英國艦隊出動

アラタルタルに向ふにあらん

發往艦隊の行方

△ 波羅的艦隊はグイゴークを發しタンジーンに向  
ふべし但しグイゴークにて一隻四百噸迄の石炭  
積入れを許さるべし

發往待校會議

△ 英國領事はカイゴークにてロフケエストウエン  
スキー提督の乗艦ニ赴き長時間會議し提督は  
續いて各艦長を召集し更に長時間會議す

海軍艦隊  
なり

△ 義勇艦隊スモレンスクペテリスブシカウニ  
隻は戦列巡洋艦に編入せらるりオン及びツイ

ニバーと改表す

十月三十日

多分美國商務院はハルに其調査会を用さるる  
海軍はカイゴーに之を行ふ國際審理は海牙又  
は其他の地に開らるしと云ふなり

艦オスマラビア、シワソイウエリキ、ナゲア  
リン、アドミラルナヒモフ、オーロラ、スグ  
イエトラナ、ドミトリドンスコイ、カムケヤ  
ツカ、シエムケング、アルマーズ及び水雷艦

漢船因鉄油  
方括

一部露艦の進航

七隻運炭船五隻はタンジーンに着せり  
残部はカイゴーに留まり美艦ランカスター  
巡洋艦九千八百噸一同地に着せり

十月三十一日

露艦の着向は昨日カイゴーに於し開らんなり  
在園記の艦五隻タンカーを去り其他のもの  
は石炭並に糧食を搭載中なり

駐米日本公使高平氏は紐育ニ於て商務院の手

漢船事件の着向

露艦の一部被難

高平公使の手術

術を授けたり

